

其光如華。又似星月。懸處虛空。成
 光明臺。樓閣千萬。百寶合成。於臺
 兩邊。各有百億華幢。無量樂器。以
 爲莊嚴。八種清風。從光明出。鼓此
 樂器。演說苦空。無常。無我之音。是
 爲水想。名第二觀。
 此想成時。一一觀之。極令了了。閉
 目開目。不令散失。唯除睡時。恒憶
 此事。如此想者。名爲粗見。極樂國
 地。若得三昧。見彼國地。了了分明。

希、快く此の事を問へり、阿難、汝當に
 受持して、廣く、多衆の爲めに、佛
 語を宣説すべし、如來今者、韋提希、
 及び未來世の、一切衆生をして、西
 方極樂世界を、觀せしめんことを教
 へん、佛力を以ての故に、當に彼の
 清淨の國土を見ること、明鏡を執
 りて、自ら而像を見るが如く、彼の國
 土の極妙の樂事を見ることを得べ
 し、心の歡喜するが故に、時に即ち
 無生法忍を得應じ、佛韋提希に告げ
 給はく、汝は是れ凡夫なり、心想羸

不可具説。是爲地想。名第三觀。佛
 告阿難。汝持佛語。爲未來世。一切
 大衆。欲脫苦者。説是觀地法。若觀
 是地者。除八十億劫。生死之罪。捨
 身他世。必生淨國。心得無疑。作是
 觀者。名爲正觀。若他觀者。名爲邪
 觀。
 佛告阿難。及韋提希。地想成已。次
 觀寶樹。觀寶樹者。一一觀之。作七
 重行樹想。一一樹高八千由旬。其

劣にして、未だ天眼を得ず、遠く觀
 ること能はず、諸佛如來は、異の方
 便有まして、汝をして見ることを得
 しめ給ふ、時に韋提希、佛に白ふし
 て言さく、世尊、我が如きは今者、佛
 力を以ての故に、彼の國土を見つ、
 若し佛滅の後の諸の衆生等、濁惡
 不善にして、五苦に逼められん、云
 かにしてか當に阿彌陀佛の、極樂世
 界を見上つるべしと。
 佛韋提希に告げ給はく、汝及び衆生、
 應當に心を専らにし、念を一處に繫

諸寶樹七寶華葉無不具足。一
 華葉作異寶色。琉璃色中出金色
 光。玻璃色中出紅色光。碼碯色中
 出砮磈光。砮磈色中出綠真珠光。
 珊瑚琥珀一切衆寶以爲映飾。妙
 眞珠網彌覆樹上。一一樹上有七
 重網。一一網間有五百億妙華宮
 殿。如梵王宮。諸天子自然在中。
 一童子五百億釋迦毗楞伽摩
 尼寶以爲瓔珞。其摩尼光照百由

けて、西方を想ふ可し、云何が想を
 作す、凡そ想を作すといふは、一切
 衆生、生盲に非ざるよりは、有目の
 徒、皆日没を見よ、當に想念を起し
 て、正坐西向して、諦かに日を觀じ
 て、心をして堅住ならしめ、專想し
 て移らざれ、見る日の没らんとし
 て、狀鼓を懸けたる如くなるべし、
 既に日を見ること已りて、目を閉ぢ
 め目を開くに、皆明了ならしめよ、是
 れを日想とす、名けて初觀と曰ふ。
 次に水想を作せ、水の微清なるを見

旬猶如和合百億日月不可具名。
 衆寶間錯色中上者。此諸寶樹行
 行相當葉葉相次於衆葉間生諸
 妙華華上自然有七寶果。一一樹
 葉縱廣正等二十五由旬。其葉千
 色有百種畫如天璽。珞有衆妙華。
 作閻浮檀金色。如旋火輪。婉轉葉
 間涌生諸果。如帝釋餅。有大光明。
 化成幢旛。無量寶蓋。時寶蓋中映
 現三千大千世界。一切佛事十方

て、亦明了ならしめて、分散の意無
 かれ、既に水を見已りなば、當に氷
 想を起す可し、氷の映徹せるを見て、
 瑠璃の想を作せ、此想成じ已りて、
 瑠璃地の、内外映徹せるを見る、下
 に金剛、七寶の金幢有りて、瑠璃地
 を擎げたり、其の幢八方にして、八
 楞具足せり、一一の方面は、百寶の
 所成なり、一一の寶珠に、千の光明
 有り、一一の光明、八萬四千色な
 り、瑠璃地に映すること、億千の日
 の如し、具さに見る可からず、瑠璃

佛國亦於中現見此樹已亦當次第一觀之觀見樹莖枝葉華果皆令分明是爲樹想名第四觀次當想水想水者極樂國土有八池水一池水七寶所成其寶柔輭從如意珠王生分爲十四支一支作七寶色黃金爲渠渠下皆以雜色金剛以爲底沙一水中有一六十億七寶蓮華一蓮華團圓正等十二由旬其摩尼水流注

地の上に黄金の繩を以て、雜厠間錯し、七寶を以て界ひて、分齊分明なり、一の寶の中に、五百色の光有り、其の光華の如し、又星月の、虚空に懸處せるに似たり、光明臺と成る、樓閣千萬にして、百寶合成す、臺の兩邊に於て、各百億の華幢有り、無量の樂器を以て莊嚴とす、八種の清風、光明より出づ、此の樂器を鼓するに、苦空、無常無我の音を演説す、是を水想とす、第二の觀と名く。

華間尋樹上下其聲微妙演說苦空無常無我諸波羅蜜復有讚歎諸佛相好者如意珠王涌出金色微妙光明其光化爲百寶色鳥和鳴哀雅常讚念佛念法念僧是爲八功德水想名第五觀衆寶國土一界上有五百億寶樓閣其樓閣中有無量諸天伎樂又有樂器懸處虚空如天寶幢不鼓自鳴此衆音中皆說念佛

此想成する時、一に之れを觀して、極めて了了ならしめよ、閉目開目、散失せしめざれ、唯睡時を除きて、恒に此事を憶せよ、此の如く想入者を、名けて粗極樂國地を見んとす、若し三昧を得つれば彼の國地を見ること、了了分明なり、具さに説く可からず、是を地想とす、第三觀と名く、佛阿難に告げ給はく、汝佛語を持ちて、未來世の一切大衆の苦を脱がれんと欲はん者の爲めに、此の觀地の法を説け、若し此の地を觀する

念法念比丘僧。此想成已。名為粗見。極樂世界。寶樹寶地。寶池。是為總觀。想名第六觀。若見此者。除無量億劫。極重惡業。命終之後。必生彼國。作是觀者。名為正觀。若他觀者。名為邪觀。

佛告阿難。及韋提希。諦聽。諦聽。善思念之。佛當為汝分別解說。除苦惱法。汝等憶持。廣為大衆分別解說。說是語時。無量壽佛。住立空中。

者は、八十億劫の生死の罪を除かん、身を捨て、他世に、必ず淨國に生ずべし、心に疑なきことを得よ、是の觀を作すをば、名けて正觀とす、若し他觀するをば名けて邪觀とす。

佛阿難及び韋提希に告げ給はく、地想成じ已りなば、次に寶樹を觀せよ、樹寶を觀せんには、一一に之を觀じて、七重行樹の想を作せ、一一の樹の高さ、八千由旬ならん、其の諸の寶樹、七寶の華葉、具足せざることを無し、一一の華葉異寶の色を作す、

觀世音大勢至。是二大士。侍立左右。光明熾盛。不可具見。百千閻浮檀金色。不得為比。時韋提希見無量壽佛已。接足作禮。白佛言。世尊。我今因佛力。故得見無量壽佛。及二菩薩。未來衆生。當云何觀。無量壽佛。及二菩薩。佛告韋提希。欲觀彼佛者。當起想念。於七寶地上。作蓮華想。令其蓮華。一葉作百寶色。有八萬四千脈。猶如天畫。脈有

瑠璃の色の中より、金色の光を出し、琥珀の色の中より、紅色の光を出し、碼碯の色の中より、硃磲の光を出し、硃磲の色の中より、綠真珠の光を出す、珊瑚、琥珀、一切の衆寶を以て映飾とす、妙真珠網、樹の上に彌覆せり、一一の樹の上に、七重の網有り、一一の網の間に、五百億の妙華の宮殿有り、梵王宮の如し、諸天の童子、自然の中に在り、一一の童子、五百億の釋迦楞伽摩尼寶を以て瓔珞とす、其の摩尼の光、自由句を照

八萬四千光了了分明皆令得見
 華葉小者縱廣二百五十由旬如
 是蓮華有八萬四千葉一葉間
 各有百億摩尼珠以爲映飾一
 一摩尼放千光明其光如蓋七寶
 合成徧覆地上釋迦楞伽寶以
 爲其臺此蓮華臺八萬金剛甄叔
 迦寶梵摩尼寶妙眞珠網以爲交
 飾於其臺上自然而有四柱寶幢
 一寶幢如百千萬億須彌山幢

す、猶し百億の日月を和合せるが如
 し、具に名く可からず、衆寶間錯
 して、色の中に上れたる者なり、此
 諸の寶樹、行行相當り、葉葉相次
 し、衆の葉の間に於て、諸の妙華を
 生ず、華の上に自然に、七寶の果あ
 り、一一の樹葉縱廣正等にして、
 二十五由旬なり、其の葉千色にして
 百種の畫有り、天の瓔珞の如し、衆
 の妙華有り、閻浮檀金色を作す、旋
 火輪の如し、葉の間に婉轉す、諸の
 果を涌生す、帝釋の瓶の如し、大光

上寶幔如夜摩天宮有五百億微
 妙寶珠以爲映飾一寶珠有八
 萬四千光一光作八萬四千異
 種金色一一金色徧其寶土處處
 變化各作異相或爲金剛臺或作
 眞珠網或作雜華雲於十方面隨
 意變現施作佛事是爲華座想名
 第七觀佛告阿難如此妙華是本
 法藏比丘願力所成若欲念彼佛
 者當先作此華座想作此想時不

明有り、化して幢幡と成る、無量の
 寶蓋あり、是の寶蓋の中に、三千大
 千世界の一切の佛事を映現す、十方
 の佛國、亦中に於て現す、此の樹を
 見已りて、亦當に次第に一一に之を
 觀すべし、樹莖枝葉華果を觀見して、
 皆分明ならしめよ、是を樹想とす、
 第四の觀と名く。
 次に當に水を想ふべし、水を想はば、
 極樂國土に八の池水有り、一一の池
 水、七寶の所成なり、其の寶柔輦な
 り、如意珠王より生ず、分れて十四

得雜觀皆應一一觀之一一葉一
 一珠一一光一一臺一一幢皆令
 分明如於鏡中自見而像此想成
 者滅除五萬劫生死之罪必定當
 生極樂世界作是觀者名為正觀
 若他觀者名為邪觀
 佛告阿難及韋提希見此事已次
 當想佛所以者何諸佛如來是法
 界身入一切衆生心想中是故汝
 等心想佛時是心即是三十二相

支と爲る、一一の支、七寶の色を作
 せり、黄金を渠とす、渠の下に皆雜
 色の金剛を以て、以て底の沙とす、
 一一の水の中に六十億の七寶の蓮華
 有り、一一の蓮華、團圓正等にして、
 十二由旬なり、其の摩尼水、華の間
 に流注して、樹を尋りて上下す、其
 の聲微妙にして、苦空無常無我、諸
 波羅密を演説す、復た諸佛の相好を
 讚歎する者有り、如意珠王より、金
 色微妙の光明を涌出す、其の光化し
 て、百寶色の鳥と爲る、和鳴哀雅に

八十隨形好是心作佛是心是佛
 諸佛正徧知海從心想生是故應
 當一心繫念諦觀彼佛多陀阿伽
 度阿羅訶三藐三佛陀想彼佛者
 先當想像開目閉目見一寶像如
 閻浮檀金色坐彼華上見像坐已
 心眼得開了了分明見極樂國七
 寶莊嚴寶地寶池寶樹行列諸天
 寶幔彌覆其上衆寶羅網滿虛空
 中見如此事極令明了如觀掌中

して、常に念佛念法念僧を讚す、是
 れを八功德水想とす、第五の觀と名
 く。
 衆寶國土の一一の界上に、五百億の
 寶樓閣有り、其の樓閣の中に、無量
 の諸天有り、天の伎樂を作す、又樂
 器有り、虚空に懸處す、天の寶幢の
 如し、鼓せざるに自ら鳴る、此の衆
 音の中に、皆念佛念法念比丘僧を説
 く、此の想成じ已るを、名けて粗ぼ極
 樂世界の寶樹寶地寶池を見るとす、
 是れを總觀想とす、第六の觀と名く、

六二

見此事已復當要作一大蓮華在
 佛左邊如前蓮華等無有異復作
 一大蓮華在佛右邊想一觀世音
 菩薩像坐左華座亦放金光如前
 無異想一大勢至菩薩像坐右華
 座此想成時佛菩薩像皆放光明
 其光金色照諸寶樹一樹下復
 有三蓮華諸蓮華上各有一佛二
 菩薩像徧滿彼國此想成時行者
 當聞水流光明及諸寶樹鳧雁鴛

若し此れを見る者は、無量億劫の極
 重の悪業を除く、命終の後に、必ず
 彼の國に生ず、是の觀を作すをば、
 名けて正觀とす、若し他觀をするを
 ば、名けて邪觀とす。
 佛阿難及び韋提希に告げ給はく、諦
 かに聽き諦かに聽け、善く之を思念
 せよ、佛當に汝が爲めに、苦惱を除
 くの法を分別し解説すべし、是の語
 を説き給ふ時、無量壽佛、空中に住
 立し給ふ、觀世音大勢至、是の二の
 大士、左右に侍立せり、光明熾盛に

七二

鶯皆說妙法出定入定恒聞妙法
 行者所聞出定之時憶持不捨令
 與修多羅合若不合者名爲妄想
 若有合者名爲鹿想見極樂世界
 是爲像想名第八觀作是觀者除
 無量億劫生死之罪於現身中得
 念佛三昧
 佛告阿難及韋提希此想成已次
 當要觀無量壽佛身相光明阿難
 當知無量壽佛身如百千萬億夜

して、具に見る可からず、百千の閻
 浮檀金色も、比とすることを得ず、
 時に韋提希、無量壽佛を見上り已り
 て、接足作禮して、佛に白して言さ
 く世尊、我今佛力に因るが故に、無
 量壽佛及び二菩薩を見上ることを得
 つ、未來の衆生、當に如何にしてか無
 量壽佛及び二菩薩を觀上るべき、佛
 韋提希に告げ給はく、彼の佛を觀ん
 と欲はば、當に想念を起すべし、七
 寶の地の上に於て、蓮華の想を作せ、
 其の蓮華の一一の葉をして、百寶の

摩天閻浮檀金色佛身高六十萬
 億那由他恒河沙由旬眉間白毫
 右旋婉轉如五須彌山佛眼如四
 大海水青白分明身諸毛孔演出
 光明如須彌山彼佛圓光如百億
 三千大千世界於圓光中有百萬
 億那由他恒河沙化佛一一化佛
 亦有衆多無數菩薩以為侍者
 無量壽佛有八萬四千相一一相
 各有八萬四千隨形好一一好復

色を作さしめよ、八万四千の脈有り、
 猶し天の畫の如し、脈に八万四千の
 光有り、了々分明に、皆見ることを
 得しめよ、華葉小さき者は縦廣二
 百五十由旬なり、是の如きの蓮華に、
 八万四千の葉有り、一一の葉の間に、
 各百億の摩尼珠王有り、以て映飾
 とす、一一の摩尼、千の光明を放つ、
 其の光蓋の如し、七寶合成して、徧
 く地上に覆へり、釋迦毗楞伽寶を以
 て其の臺とす、此の蓮華臺は、八万
 金の剛甄叔迦寶、焚摩尼寶、妙眞

有八萬四千光明一一光明徧照
 十方世界念佛衆生攝取不捨其
 光明相好及與化佛不可具說但
 當憶想令心眼見見此事者即見
 十方一切諸佛以見諸佛故名念
 佛三昧作是觀者名觀一切佛身
 以觀佛身故亦見佛心佛心者大
 慈悲是以無緣慈攝諸衆生作此
 觀者捨身他世生諸佛前得無生
 忍是故智者應當繫心諦觀無量

珠網を以て交飾とす、其の臺の上に
 於て、自然として、四柱の寶幢有り、
 一一の寶幢、百千万億の須彌山の如
 し、幢上の寶幔は、夜摩天宮の如し、
 五百億の微妙の寶珠有りて、以て映
 飾とす、一一の寶珠に、八万四千の
 光有り、一一の光、八万四千、異種
 の金色を作す、一一の金色、其の寶
 土に徧す、處處に變化して、各異想
 を作す、或は金剛臺と爲り、或は眞
 珠網と作り、或は雜華雲と作る、十
 方面に於て、意に隨ひ變現して、佛

壽佛觀無量壽佛者從一相好入。但觀眉間白毫極令明了見眉間白毫者八萬四千相好自然當現見無量壽佛者即見十方無量諸佛得見無量諸佛故諸佛現前授記是為徧觀一切色身想名第九觀作此觀者名為正觀若他觀者名為邪觀。佛告阿難及韋提希見無量壽佛了了分明已次復當觀觀世音菩

事を施作す、是を華座の想とす、第七の觀と名く、佛阿難に告げ給はく、此の如きの妙華は、是れ本法藏比丘の、願力の所成なり、若し彼の佛を念せんと欲はば、當に先づ此の華座の想を作すべし、此の想を作さん時、雜觀することを得ざれ、皆一一に之を觀す應し、一一の葉、一一の珠、一一の光、一一の臺、一一の幢、皆分明ならしめて、鏡の中に於て、自ら面像を見るが如くにせよ、此の想成ずれば、五万劫の生死の罪を滅除

薩此菩薩身長八十萬億那由他由旬身紫金色頂有肉髻項有圓光面各百千由旬其圓光中有五百化佛如釋迦牟尼佛一一化佛有五化佛菩薩無量諸天以為侍者舉身光中五道衆生一切色相皆於中現頂上毗楞伽摩尼寶以為天冠其天冠中有一立化佛高二十五由旬觀世音菩薩面如閻浮檀金色眉間毫相備七寶色流

す、必定して當に極樂世界に生ずべし、是の觀を作すをば、名けて正觀とす、若し他觀する者は、名けて邪觀とす。佛阿難、及び韋提希に告げ給はく、此の事を見已りて、次に當に佛を想ふべし、所以は何ん、諸佛如來は、是れ法界の身なり、一切衆生の心想の中に入り給へり、是の故に汝等心に佛を想ふ時、是の心即ち是れ、三十二相、八十隨形好なり、是の心作佛す、是の心是れ佛なり、諸佛正

出八萬四千種光明。一一光明。有無量無數百千化佛。一一化佛。無數化菩薩。以為侍者。變現自在。滿十方世界。譬如紅蓮華色。有八十億光明。以為瓔珞。其瓔珞中。普現一切諸莊嚴事。手掌作五百億雜蓮華色。手指端。一一指端。有八萬四千畫。猶如印文。一一畫。有八萬四千色。一一色。有八萬四千光。其光柔軟。普照一切。以此寶手。接

偏知海は、心想より生ず、是の故に應當に一心に繫念して、諦かに彼の佛、多陀阿伽度阿羅訶、三藐三佛。觀ずべし、彼の佛を想はじ、先づ當に像を想ふべし、閉目開目に、一の寶像の、閻浮檀金色の如くなるを見よ、彼の華上に坐せり、像の坐せるを見已りて、心眼開くことを得、了了分明に、極樂國の、七寶莊嚴の寶地寶池、寶樹行列し、諸天の寶帳、其の上に彌覆し、衆寶羅網、虚空の中に満てるを見よ、此の如き事を見

引衆生。舉足時。足下有千輻輪相。自然化成五百億光明臺。下足時。有金剛摩尼華布散一切。莫不彌滿。其餘身想衆好具足。如佛無異。唯頂上肉髻及無見頂相。不及世尊。是為觀觀世音菩薩。眞實色身。想名第十觀。佛告阿難。若有欲觀觀世音菩薩者。當作是觀。作是觀者。不遇諸禍。淨除業障。除無數劫生死之罪。如此菩薩。但聞其名。獲

ること、極めて明了ならしめてん、掌の中を觀るが如くせよ、此の事を見已りなば、復た當に更らに一の大蓮華を作して、佛の左邊に在け、前の蓮華の如くして、等しくして異なること有ること無れ、復た一つの大蓮華を作して、佛の右邊に在け、一の觀世音菩薩の像、左の華座に坐せりと想へ、亦金光を放つこと前の如くして異なること無し、一の大勢至菩薩の像、右の華座に坐せりと想ふべし、此の想成する時、佛菩薩の

四三

無量福。何況諸觀。若有欲觀觀世音菩薩者。先觀頂上肉髻。次觀天冠。其餘衆相。亦次第觀之。亦令明了。如觀掌中。作是觀者。名爲正觀。若他觀者。名爲邪觀。次復應觀大勢至菩薩。此菩薩身量大小。亦如觀世音。圓光面各百二十五由旬。照二百五十由旬。舉身光明。照十方國。作紫金色。有緣衆生。皆悉得見。但見此菩薩。一毛孔光。卽見十

像。皆光明を放つ、其の光金色にして、諸の寶樹を照す、一一の樹下に復た三の蓮華あり、諸の蓮華の上に、各一佛、二菩薩有して、彼の國に徧満す、此の想成する時、行者當に水流光明、及び諸の寶樹、鳥鴈鴛鴦の皆妙法を説くを聞くべし、出定入定に、恒に妙法を聞かん、行者の所聞、出定の時、憶持して捨てざれば、修多羅を合せしめよ、若し合せざるをば、名けて妄想とす、若し合すること有らんをば、名けて鹿想に、極

五三

方無量諸佛。淨妙光明。是故號此菩薩。名無邊光。以智慧光。普照一切。令離三塗。得無上力。是故號此菩薩。名大勢至。此菩薩天冠有五百寶華。一寶華有五百寶臺。一臺中十方諸佛。淨妙國土。廣長之相。皆於中現。頂上肉髻。如蓋頭。摩華於肉髻上。有一寶餅。盛諸光明。普現佛事。餘諸身相。如觀世音等。無有異。此菩薩行時。十方世界。

樂世界を見るとき、是れを像想とす、第八の觀と名く、是の觀を作せば、無量億劫の生死の罪を除く、現身の中に於て、念佛三昧を得。佛阿難及韋提希に告げ給はく、此想成じ已りなば、次に當に無量壽佛の身相光明を觀すべし、阿難當に知るべし、無量壽佛の身は百千萬億の夜摩天、閻浮檀金色の如し、佛身の高さ六十萬億那由他恒河沙由旬なり、眉間の白毫は、右は旋りて婉轉して、五須彌山の如し、佛眼は四大

六三

一切震動。當地動處。有五百億寶華。一寶華莊嚴高顯。如極樂世界。此菩薩坐時。七寶國土一時動搖。從下方金光佛刹。乃至上方光明王佛刹。於其中間。無量塵數分身。無量壽佛。分身觀世音大勢至。皆悉雲集。極樂國土。側塞空中。坐蓮華座。演說妙法。度苦衆生。作此觀者。名爲正觀。若他觀者。名爲邪觀。見大勢至菩薩。是爲觀大勢至。

海水の如し、青白分明なり、身の諸の毛孔より、光明を演出す、須彌山の如し、彼の佛の圓光は、百億の三千大千世界の如し、圓光の中に於て、百万億那由他恒河沙の化佛有します、一一の化佛に、亦衆多、無數の化菩薩有します、以て侍者爲り、無量壽佛に、八万四千の相有します、一一の相に、各八万四千の隨形好有り、一一の好に、復た八万四千の光明有り、一一の光明、徧く十方の世界を照す、念佛の衆生を、攝取して

七三

色身想。名第十一觀。此菩薩者。除無數劫阿僧祇生死之罪。作是觀者。不處胞胎。常遊諸佛淨妙國土。此觀成已。名爲具足觀。觀世音大勢至。見此事時。當起自心。生於西方極樂世界。於蓮華中。結跏趺坐。作蓮華合想。作蓮華開想。蓮華開時。有五百色光。來照身。想眼目開。想見佛菩薩。滿虛空中。水鳥樹林。及與

捨てず、其の光明相好及び化佛、具に説く可からず、但當に憶想して、心眼をして見せしむべし、此の事を見れば、即ち十方一切の諸佛を見上つる、諸佛を見ざるを以ての故に、念佛三昧と名く、是の觀を作すをば、一切の佛身を觀すと名く、佛身を觀するを以ての故に、亦佛心を見る、佛心とは、大慈悲是れなり、無縁の慈を以て、諸の衆生を攝す、此の觀を作せば、身を捨て、他世に、諸佛の前に生じて、無生忍を得、是の故に

諸佛所出音聲皆演妙法與十二部經合出定之時憶持不失見此事已名見無量壽佛極樂世界是爲普觀想名第十二觀無量壽佛化身無數與觀世音大勢至常來至此行人之所

佛告阿難及韋提希若欲至心生西方者先當觀於一丈六像在池水上如先所說無量壽佛身量無邊非是凡夫心力所及然彼如來

智者、當應に心を繋けて、諦かに無量壽佛を觀すべし、無量壽佛を觀せば、一の相好より入れ、但眉間の白毫を觀じて、極めて明了ならしめよ、眉間の白毫を見れば、八万四千の相好、自然に當に現すべし、無量壽佛を見上れば、即ち十方無量の諸佛を見上るなり、無量の諸佛を見上ることを得るが故に、諸佛現前に授記す、是れを徧觀、一切色身想とす、第九觀と名く、此の觀を作すをば、名けて正觀とす、若し他觀するを

宿願力故有億想者必得成就但想佛像得無量福何況觀佛具足身相阿彌陀佛神通如意於十方國變現自在或現大身滿虛空中或現小身丈六八尺所現之形皆眞金色圓光化佛及寶蓮華如上所說觀世音菩薩及大勢至於一切處身同衆生但觀首相知是觀世音知是大勢至此二菩薩助阿彌陀佛普化一切是爲雜觀想名

佛化無量壽佛

ば、名けて邪觀とす。

佛阿難及び韋提希に告げ給はく、無量壽佛を見ることを了了分明なること己りて、次に復た當に觀世音菩薩を觀すべし、此菩薩身の長、八十萬億那由他由旬なり、身紫金色なり、頂きに肉髻有り、項に圓光有り、面各百千由旬なり、其の圓光の中に、五百の化佛有します、釋迦牟尼佛の如し、一の化佛に、五百の化菩薩有りて、無量諸天、以て侍者爲り、擧身の光の中に、五道の衆生の、一切

第十三觀。佛告阿難及韋提希。上品上生者。若有衆生。願生彼國者。發三種心。即便往生。何等爲三。一者至誠心。二者深心。三者廻向發願心。具三心者。必生彼國。復有三種衆生。當得往生。何等爲三。一者慈心不殺。具諸戒行。二者讀誦大乘方等經典。三者修行六念。廻向發願。願生彼國。具此功德。一日乃至七日。卽

の色相、皆中に於て現ず、頂上に毗楞伽摩尼寶を、以て天冠す、其天冠の中に、一の立化佛有します、高さ二十五由旬なり、觀世音菩薩の、而閻浮檀金の色の如し、眉間の毫相、七寶の色を備へたり、八万四千種の光明を流出す、一の光明に、無量無數、百千の化佛有します、一の化佛、無數の化菩薩、以て侍者爲り、變現自在にして、十方世界に満てり、譬へば紅蓮華色の如し、八十億の光明有りて、以て瓔珞爲り、其

得往生。生彼國時。此人精進勇猛。故阿彌陀如來。與觀世音大勢至。無數化佛百千比丘。聲聞大衆無數。諸天七寶宮殿。觀世音菩薩。執金剛臺。與大勢至菩薩。至行者前。阿彌陀佛。放大光明。照行者身。與諸菩薩。授手迎接。觀世音大勢至。與無數菩薩。讚歎行者。勸進其心。行者見已。歡喜踊躍。自見其身。乘金剛臺。隨從佛後。如彈指頃。往生

の瓔珞の中に、普く一切諸の莊嚴の事を現ず、手掌に五百億の雜蓮華の色を作す、手の十指の端、一一の指の端に、八万四千の畫あり、猶し印文の如し、一一の畫に、八万四千の色有り、一一の色に、八万四千の光有り、其の光柔軟にして、普く一切を照す、此の寶手を以て、衆生を接引す、足を擧ぐる時。足の下に千輻輪の相有り、自然に化して、五百億の光明臺と成る、足を下す時。金剛摩尼華有り、一切に布散して、彌滿せ

彼國生彼國已見佛色身衆相具足見諸菩薩色相具足光明寶林演說妙法聞已即悟無生法忍經須臾間歷事諸佛徧十方界於諸佛前次第授記還到本國得無量百千陀羅尼門是名上品上生者上品中生者不必受持讀誦方等經典善解義趣於第一義心不驚動深信因果不謗大乘以此功德迴向願求生極樂國行此行者命

ざることなし、其餘の身相、衆好具足せること、佛の如くして異無し、唯頂上の肉髻、及び無見頂の相、世尊に及ばず、是れを觀世音菩薩の眞實色身想を觀すとす、第十の觀と名く、佛阿難に告げ給はく、若し觀世音菩薩を觀せんと欲すること有らば、當に是の觀を作すべし、是の觀を作す者は諸禍に遇はず、業障を淨除す、無數劫の生死の罪を除く、此の如きの菩薩、但其の名を聞くに、無量の福を獲、何に況んや諦かに觀

欲終時阿彌陀佛與觀世音大勢至無量衆眷屬圍繞持紫金臺至行者前讚言法子汝行大乘解第一義是故我今來迎接汝與千化佛一時授手行者自見坐紫金臺合掌又手讚歎諸佛如一念頃即生彼國七寶池中此紫金臺如大寶華經宿則開行者身作紫磨金色足下亦有七寶蓮華佛及菩薩俱時放光明照行者身目即開

ぜんをや、若し觀世音菩薩を觀せんと欲すること有らば、先づ頂上の肉髻を觀ぜよ、次に天冠を觀ぜよ、其餘の衆相、亦次第に之を觀して、亦明了ならしめて、掌の中を觀るが如くせよ、是の觀を作すとば、名けて正觀とす、若し他觀するをば邪觀とす、次に復た大勢至菩薩を觀ぜよ、此の菩薩の身量大小、亦觀世音の如し、圓光の面各百二十五由旬なり、二百五十由旬を照す、舉身の光明、十方國を照す、紫金色を作す、

明因前宿習。普聞衆聲。純說甚深。第一義諦。卽下金臺。禮佛合掌。讚歎世尊。經於七日。應時卽於阿耨多羅三藐三菩提。得不退轉。應時卽能飛行。徧至十方。歷事諸佛。於諸佛所。修諸三昧。經一小劫。得無生忍。現前授記。是名上品中生者。上品下生者。亦信因果。不謗大乘。但發無上道心。以此功德。迴向願求。生極樂國。行者命欲終時。阿彌

有緣の衆生皆悉く見ることを得、但此菩薩の一毛孔の光を見れば、即ち十方無量諸佛の淨妙の光明を見る、是の故に此の菩薩を號して、無邊光と名く、智慧の光を以て、普く一切を照して、三塗を離れしむるに、無上力を得たり、是の故に此の菩薩を號して、大勢至と名く、此の菩薩の天冠に、五百の寶華有り、一の寶華に、五百の寶臺有り、一の寶臺の中に、十方諸佛の、淨妙の國土、廣長の相、皆中に於て現ず、頂

陀佛及觀世音大勢至與諸眷屬。持金蓮華化作五百化佛。來迎此人。五百化佛一時授手讚言法子。汝今清淨發無上道心。我來迎汝。見此事時卽自見身坐金蓮華坐。已華合隨世尊後卽得往生七寶池中。一日一夜蓮華乃開。七日之中。乃得見佛。雖見佛身於衆相好。心不明了。於三七日後乃了見。聞衆音聲。皆演妙法。遊歷十方。供

上の肉髻、鉢頭摩華の如し、肉髻の上に於て、一の寶瓶有り、諸の光明を盛れて、普く佛事を現ず、餘の諸の身相、觀世音の如く、等しく異有ること無し、此の菩薩行する時、十方世界、一切震動す、地動の處に當りて、五百億の寶華有り、一の寶華に、莊嚴高く顯はれて、極樂世界の如し、此の菩薩坐する時、七寶の國土、一時に動搖す、下方の金光佛刹より、乃至上方の、光明王佛刹まで、其の中間に於て、無量塵數

養諸佛於諸佛前聞甚深法經三
 小劫得百法明門住歡喜地是名
 上品下生者是名上輩生想名第
 十四觀
 佛告阿難及韋提希中品上生者
 若有衆生受持五戒持八戒齋修
 行諸戒不造五逆無衆過患以此
 善根迴向願求生於西方極樂世
 界臨命終時阿彌陀佛與諸比丘
 眷屬圍繞放金色光至其所演

なり、分身の無量壽佛、分身の觀世
 音大勢至、皆悉く極樂國土に雲集す、
 空中に側塞して蓮華座に坐す、妙法
 を演説して苦の衆生を度す、此の觀
 を作すをば、名けて正觀とす、若し
 他觀するをば、名けて邪觀とす、大
 勢至菩薩を見る、是を大勢至の色身
 想を觀すとす、第十一の觀と名く、
 此の菩薩を觀すれば、無量劫阿僧祇
 の、生死の罪を除く、是の觀を作せ
 ば、胞胎に處せず、常に諸佛、淨妙
 の國土に遊ぶ、此の觀成じ已るを、

說苦空無常無我讚歎出家得離
 衆苦行者見已心大歡喜自見已
 身坐蓮華臺長跪合掌爲佛作禮
 未舉頭頃即得往生極樂世界蓮
 華尋開當華敷時聞衆音聲讚歎
 四諦應時即得阿羅漢道三明六
 通具八解脫是名中品上生者
 中品中生者若有衆生若一日
 夜受持八戒齋若一日一夜持沙
 彌戒若一日一夜持具足戒威儀

名けて具足して觀世音大勢至を觀す
 とす。
 此の事を見る時、當に自心を起して、
 西方極樂の世界に生じて、蓮華の中
 に於て、結跏趺坐し、蓮華の合する
 想を作し、蓮華の開くる想を作すべ
 し、蓮華開くる時、五百色の光有り、
 來たりて、身を照す、眼目開くと想
 へ、佛菩薩虛空の中に満てると思
 と想へ、水鳥樹林、及び諸佛の、所
 出の音聲、皆妙法を演ぶ、十二部經
 と合して、出定の時、憶持して失せ

無缺以此功德迴向願求生極樂
 國戒香熏修如此行者命欲終時
 見阿彌陀佛與諸眷屬放金色光
 持七寶蓮華至行者前行者自聞
 空中有聲讚言善男子如汝善人
 隨順三世諸佛教故我來迎汝行
 者自見坐蓮華上蓮華即合生於
 西方極樂世界在寶池中經於七
 日蓮華乃敷華既敷已開目合掌
 讚歎世尊聞法歡喜得須陀洹經

ず、此の事を見已るを、無量壽佛の
 極樂世界を見ると名く、是を普觀想
 とす、第十二の觀と名く、無量壽佛、
 化身無數なり、觀世音大勢至と、常
 に此の行人の所に來至す。
 佛阿難及び韋提希に告給く、若し心
 を至し、西方に生ぜんと欲せん者は、
 先づ當に一つの丈六の像を觀じて、
 池水の上に在くべし、先の所説の如
 きは、無量壽佛、身量無邊にして、
 是れ凡夫の、心力の及ぶ所に非らず、
 然るを彼の如來の、宿願力の故に憶

半劫已成阿羅漢是名中品中生
 者。中品下生者若有善男子善女人
 孝養父母行世仁慈此人命欲終
 時遇善知識為其廣說阿彌陀佛
 國土樂事亦說法藏比丘四十八
 願聞此事已尋即命終譬如壯士
 屈伸臂頃即生西方極樂世界生
 經七日遇觀世音及大勢至聞法
 歡喜經一小劫成阿羅漢是名中

想すること有れば、必ず成就すること
 とを得、但佛像を想ふに、無量の福
 を得、何に況んや佛の具足の身想を
 觀ぜんをや、阿彌陀佛、神通如意に
 して、十方の國に於て、變現自在な
 り、或は大身を現じて、虚空の中に
 満ち、或は小身を現じて、丈六八尺
 なり、所現の形、皆眞金色なり、圓
 光の化佛及び寶蓮華、上の所説の如
 し、觀世音菩薩及び大勢至、一切處
 に於て身同じ、衆生但首相を觀て、
 是れ觀世音と知り、是れ大勢至と知

品下生者。是名中輩生想。名第十

五觀 佛告阿難及韋提希下品上生者。或有衆生。作衆惡業。雖不誹謗。方等經典。如此愚人。多造衆惡。無有慚愧。命欲終時。遇善知識。爲讚大乘。十二部經。首題名字。以聞如是。諸經名故。除卻千劫極重惡業。智者復教。合掌叉手。稱南無阿彌陀佛。稱佛名故。除五十億劫生死之

る、此の二菩薩、阿彌陀佛を助けて、普く一切を化す、是を雜觀想とす、第十三の觀と名く。

佛阿難及び韋提希に告げ給はく、上品上生と云ふは、若し衆生有りて、彼の國に生れんと願すれば、三種の心を發して、即ち往生す、何等をか三つと爲る、一つには至誠心、二には深心、三つには迴向發願心なり、三心を具すれば必ず彼の國に生ず、復た三種の衆生有りて、當に往生を得べし、何等をか三つと爲る、一つ

罪爾時彼佛即遣化佛化觀世音。化大勢至。至行者前。讚言善男子。汝稱佛名。故諸罪消滅。我來迎汝。作是語已。行者即見化佛光明。徧滿其室。見已歡喜。即便命終。乘寶蓮華。隨化佛後。生寶池中。經七七。日蓮華。乃敷當華敷時。大悲觀世音菩薩。及大勢至。放大光明。住其人前。爲說甚深。十二部經。聞已信解。發無上道心。經十小劫。具百法

には慈心にして殺せず、諸の戒行を具す、二つには大乘、方等經典を讀誦す、三つには六念を修行す、迴向發願して、彼の國に生ぜん願す、此の功德を具すること、一日乃至七日にして、即ち往生を得、彼の國に生ずる時、此の人精進勇猛なるが故に、阿彌陀如來、觀世音大勢至、無數の化佛、百千の比丘、聲聞大衆、無數の諸天、七寶の宮殿と與にし、觀世音菩薩、金剛臺を執りて、大勢至菩薩と、行者の前に至る、阿彌陀

明門得入初地是名下品上生者
 得聞佛名法名及聞僧名聞三寶
 名即得往生
 佛告阿難及韋提希下品中生者
 或有衆生毀犯五戒八戒及具足
 戒如此愚人偷僧祇物盜現前僧
 物不淨說法無有慚愧以諸惡業
 而自莊嚴如此罪人以惡業故應
 墮地獄命欲終時地獄衆火一時
 俱至遇善知識以大慈悲爲說阿

佛、大光明を放ちて、行者の身を照
 し給ふ、諸の菩薩と、手を授けて迎
 接す、觀世音、大勢至、無數の菩薩
 と、行者を讚歎して、其の心を勸進
 す、行者見已りて、觀喜踊躍す、自
 ら其の身を見れば金剛臺に乗じて、
 佛後に隨從して、彈指の頃の如くに、
 彼の國に往生す、彼の國に生じ已り
 て、佛の色身の、衆相具足せるを見
 上る、諸の菩薩の、色相具足せる
 を見る、光明の寶林、妙法を演説す、
 聞き已りて即ち、無生法忍を悟る、

彌陀佛十力威德廣說彼佛光明
 神力亦讚戒定慧解脫解脫知見
 此人聞已除八十億劫生死之罪
 地獄猛火化爲清涼風吹諸天華
 華上皆有化佛菩薩迎接此人如
 一念頃即得往生七寶池中蓮華
 之內經於六劫蓮華乃敷當華敷
 時觀世音大勢至以梵音聲安慰
 彼人爲說大乘甚深經典聞此法
 已應時即發無上道心是名下品

須臾の間を経て、諸佛に歷事し、十
 方界に徧して、諸佛の前に於て、次
 第に授記せらる、本國に還到して、
 無量百千の陀羅尼門を得、是を上品
 上生の者と名く。
 上品中生といふは、必ずしも方等
 經典を受授讀誦せざれども、善く義
 趣を解り、第一義に於て、心驚動せ
 ず、深く因果を信じて、大乘を謗せ
 ず、此の功德を以て、迴向して極樂
 國に生れんと願求す、此行を行する
 者、命終らんと欲する時、阿彌陀佛、

中生者。佛告阿難。及韋提希。下品下生者。或有衆生。作不善業。五逆十惡。具諸不善。如此愚人。以惡業故。應墮惡道。經多劫。受苦無窮。如此愚人。臨命終時。遇善知識。種種安慰。爲說妙法。教令念佛。此人苦逼。不遑念佛。善友告言。汝若不能念者。應稱無量壽佛。如是至心。令聲不絕。具足十念。稱南無阿彌陀佛。稱

觀世音大勢至、無量大衆と、眷屬に圍繞せられて、紫金臺を持して、行者の前に至る、讚めて言はく、法子、汝大乘を行じ、第一義を解る、是の故に我今來りて、汝を迎接すと、千の化佛と、一時に手を授く、行者自ら見れば紫金臺に坐す、合掌叉手して、諸佛を讚歎す、一念の頃の如くに、即ち彼の國の、七寶池の中に生ず、此紫金臺は、大寶華の如し、宿を経て則ち開く、行者の身、紫磨金色に作れり、足の下に亦七寶蓮華

佛名故。於念念中。除八十億劫生死之罪。命終之時。見金蓮華。猶如日輪。住其人前。如一念頃。即得往生。極樂世界。於蓮華中。滿十二大劫。蓮華方開。觀世音大勢至。以大悲音聲。爲其廣說。諸法實相。除滅罪法。聞已歡喜。應時即發菩提之心。是名下品下生者。是名下輩生。想名第十六觀。說是語時。韋提希與五百侍女。聞

有り、佛及び菩薩、俱時に光明を放ち、行者の身を照す、目即ち開きて明なり、前の宿習に因りて、普く衆聲を聞くに、純ら甚深の第一義諦を説く、即ち金臺より下りて佛を禮し合掌して、世尊を讚歎す、七日を経て、時に應じて、即ち阿耨多羅三藐三菩提に於て、不退轉を得、時に應じて即ち能く、飛行して徧く十方に至り、諸佛に歷事す、諸佛の所に於て、諸の三昧を修す、一小劫を経て、無生忍を得、現前に授記せらる、

佛所說應時即見極樂世界廣長
 之相得見佛身及二菩薩心生歡
 喜歎未曾有廓然大悟得無生忍
 五百侍女發阿耨多羅三藐三菩
 提心願生彼國世尊悉記皆當往
 生彼國已得諸佛現前三昧無
 量諸天發無上道心
 爾時阿難即從座起前白佛言世
 尊當何名此經此法之要當云何
 受持佛告阿難此經名觀極樂國

是れを上品中生の者と名く。
 上品下生と云ふは、亦因果を信じ、
 大乘を謗せず、但無上道心を發す、
 此の功徳を以て、迴向し、極樂國に
 生れんと願求す、行者命終らんと欲
 する時、阿彌陀佛、及び觀世音大勢
 至、諸の眷屬と、金蓮華を持て、五
 百の化佛を化作して、此の人を來迎
 す、五百の化佛、一時に手を授けて、
 讚めて言く法子、汝今清淨にして、
 無上道心を發す、我來りて汝を迎ふ
 と、此の事を見る時、即ち自ら身を

土無量壽佛觀世音菩薩大勢至
 菩薩亦名淨除業障生諸佛前汝
 當受持無令忘失行此三昧者現
 身得見無量壽佛及二大士若善
 男子善女人但聞佛名二菩薩名
 除無量劫生死之罪何況憶念若
 念佛者當知此人是人中分陀利
 華觀世音菩薩大勢至菩薩爲其
 勝友當坐道場生諸佛家佛告阿
 難汝好持是語持是語者即是持

見れば、金蓮華に坐す、坐し已れば
 華合す、世尊の後に隨ひて、即ち七
 寶池の中に往生することを得、一日
 一夜に、蓮華乃ち開く、七日の中に、
 乃ち佛を見上ることを得、佛身を見
 上ると雖も、衆の相好に於て、心
 明了ならず、三七日の後に於て、乃
 ち了了に見上る、衆の音聲を聞く
 に、皆妙法を演ぶ、十方に遊歴して、
 諸佛を供養す、諸佛の前に於て、甚
 深の法を聞く、三小劫を経て、十方
 明の門を得、歡喜地に住す、是れを

無量壽佛名。佛說此語時。尊者目
 健連阿難及韋提希等。聞佛所說
 皆大歡喜。
 爾時世尊。足步虛空。還者闍崛山。
 爾時阿難。廣爲大衆說如上事。無
 量諸天及龍夜叉。聞佛所說。皆大
 歡喜。禮佛而退。

佛說觀無量壽經

上品下生の者と名く、是れを上輩
 生想と名く、第十四の觀と名く。
 佛阿難及び韋提希に告げ給はく、中
 品上生と云ふは、若し衆生有りて、
 五戒を受授し、八戒齋を持ち、諸戒
 を修行し、五逆を造らず、衆の過患
 無し、此の善根を以て、迴向して、
 西方極樂世界に生れんと願求す、命
 終の時に臨みて、阿彌陀佛、諸の比
 丘と、眷屬に圍繞せられ、金色の光
 を放ちて、其の人の所に至る、苦空
 無常無我を演説し、出家の衆苦を離

るゝことを得ることを讚歎す、行者見已りて、心大に歡喜す、自ら己身を見れば、蓮
 華臺に坐す、長跪合掌して、佛の爲めに禮を作す、未だ頭を擧げざる頃に、即ち極樂
 世界に往生することを得、蓮華尋ち開く、華敷くる時に當りて、衆の音聲を聞くに、
 四諦を讚歎す、時に應じて即ち阿羅漢道を得、三明六通ありて、八解脱を具す是れを
 中品上生の者と名く。

中品中生といふは、若し衆生有りて、若しは一日一夜、八戒齋を受持し、若しは一日
 一夜、沙彌戒を持ち、若しは一日一夜、具足戒を持ちて、威儀缺くること無し、此
 の功德を以て、迴向して極樂國に生れんと願求す、戒香熏修せる此の如きの行者、命
 終らんと欲する時、阿彌陀佛、諸の眷屬と、金色の光を放ち、七寶の蓮華を持て、行
 者の前に至り給ふを見る、行者自ら聞けば、空中に聲有りて、讚めて言く善男子、汝
 が如きは善人なり、三世諸佛の教に隨順するが故に、我れ來たり汝を迎ふと、行者
 自ら見れば、蓮華の上に坐す、蓮華即ち合す、西方極樂世界に生れて、寶池の中に在

り、七日を経て、蓮華乃ち敷く、華既に敷き已りて、目を開き合掌して、世尊を讚歎す、聞法歡喜して、須陀洹を得、半劫を経已りて、阿羅漢と成る、是れを中品中生の者と名く。

中品下生といふは、若し善男子善女人有り、父母に孝養し、世の仁慈を行はず、此の人命終らんと欲する時、善知識の、其れが爲めに廣く、阿彌陀佛の、國土の樂事を説き、亦法藏比丘の四十八願を説くに遇はん、此の事を聞き已りて、尋即ち命終す、譬へば壯士の臂を屈伸する頃の如くに、即ち西方極樂世界に生ず、生じて七日を経て、觀世音及び大勢至に遇ひて、聞法歡喜す、一小劫を経て、阿羅漢と成る、是れを中品下生の者と名く、是れを中輩生想と名く、第十五の觀と名く。

佛阿難及び韋提希に告げ給はく、下品上生といふは、或は衆生有りて、衆の惡業を作れり、方等經典を誹謗せずと雖も、此の如きの惡人、多く衆惡を造りて、慚愧有ること無し、命終らんと欲する時に、善知識の、爲めに大乘十二部經の、首題の名字を

誦むるに遇はん、此の如きの、諸經の名を聞くを以ての故に、千劫の極重の惡業を除卻す、智者復た教へて合掌叉手して、南無阿彌陀佛と稱せしむ、佛名を稱するが故に、五十億劫の生死の罪を除く、爾の時に彼の佛、即ち化佛、化觀世音、化大勢至を遣して、行者の前に至りて、讚めて言く善男子、汝佛名を稱するが故に、諸罪消滅す、我れ來たりて汝を迎ふ、是の語を作し已りて、行者即ち化佛の光明、其の室に徧滿せるを見上る、見已りて歡喜して、即便ち命終す、寶蓮華に乗じ、化佛の後に隨つて、寶池の中に生ず、七七日を経て、蓮華乃ち敷く、華敷くる時に當りて、大悲觀世音菩薩、及び大勢至、大光明を放ちて、其の人の前に住して、爲めに甚深の十二部經を説く、聞き已りて、信解して、無上道心を發す、十小劫を経て、百法明門を具し、初地に入ることを得、是れを下品上生の者と名く、佛名法名を聞き、及び僧名を聞くことを得、三寶の名を聞きて、即ち往生を得。

佛阿難及び韋提希に告げ給はく、下品中生といふは、或は衆生有りて、五戒八戒、及

び具足戒を毀犯す、此の如きの愚人、僧祇物を偷み、現前僧物を盗み、不淨に説法す、
 慚愧有ること無し、諸の悪業を以て而て自ら莊嚴す、此の如きの罪人、悪業を以ての
 故に、地獄に墮すべし、命終らんと欲する時、地獄の衆火、一時に俱に至る、善知識
 の、大慈悲を以て、爲めに阿彌陀佛の、十力威徳を説き、廣く彼の佛の、光明神力を
 説き、亦戒定慧、解脱知見を讚するに遇はん、此の人聞き已りて、八十億劫の、生死の
 罪を除く、地獄の猛火、化して清涼の風と爲る、諸の天華を吹く、華の上に皆化佛菩
 薩有しまして、此の人を迎接す、一念の頃の如くに、即ち往生を得、七寶池の中、蓮
 華の内にして、六劫を経、蓮華乃ち敷けん、華敷くる時に當りて、觀世音大勢至、梵
 音聲を以て、彼の人を安慰す、爲めに大乘甚深の經典を説く、此の法を聞き已り、時
 に應じて即ち無上道心を發す、是れを下品中生の者と名く。
 佛阿難及び韋提希に告げ給はく、下品下生といふは、或は衆生有りて、不善業たる五
 逆十惡を作る、諸の不善を具せる、此の如きの愚人、悪業を以ての故に、惡道に墮す

べし、多劫を経歴して、苦を受くること窮り無からん、此の如きの愚人、命終の時に
 臨んで、善知識の、種種に安慰して、爲めに妙法を説き、教へて念佛せしむるに遇は
 ん、此の人苦に逼められて、念佛するに違あらず、善友告げて言はく、汝若し念する
 能はずば、無量壽佛と稱すべしと、是の如く心を至し、聲を絶えざらしめて、十念を
 具足して、南無阿彌陀佛と稱せしむ、佛名を稱するが故に、念念の中に於て、八十億
 劫の、生死の罪を除く、命終の時、金蓮華を見る、猶し日輪の如く、其の人の前に住
 す、一念の頃の如くに、即ち極樂世界に往生することを得ん、蓮華の中に於て、十二
 大劫を満て、蓮華方に開く、觀世音大勢至、大悲の音聲を以て、其れが爲めに廣く、
 諸法實相、除滅罪の法を説く、聞き已りて歡喜す、時に應じて即ち菩提の心を發す、
 是れを下品下生の者と名く、是れを下輩生想と名く、第十六の觀と名く。
 是の語を説き給ふ時、韋提希、五百の侍女と、佛の所説を聞き、時に應じて即ち、
 極樂世界の、廣長の相を見上る、佛身及び二菩薩を見上ることを得て、心に歡

喜を生ず、未曾有なりと歎ず、廓然として大きに悟りて、無生忍を得、五百の侍女、阿耨多羅三藐三菩提心を發して、彼の國に生ぜんと願す、世尊悉く、皆當に往生すべしと記す、彼の國に生れ已りて、諸佛現前三昧を得ん、無量の諸天、無上道心を發しき。

爾の時に阿難、即ち座より起ちて、前んで佛に白して言さく世尊、當に何んが此の經を名くべき、此の法の要を、當に云何が受持すべき、佛阿難に告げ給はく、此の經をば觀極樂國土、無量壽佛、觀世音菩薩、大勢至菩薩と名く、亦淨除業障、生諸佛前と名く、汝當に受持すべし、忘失せしむること無れ、此の三昧を行ずる者は現身に無量壽佛、及び二大士を見上ることを得、若し善男子善女人、但だ佛名二菩薩名を聞くに、無量劫、生死の罪を除く、何に況んや憶念せんをや、若し念佛する者は、當に知るべし此の人は、是れ人中の分陀利華なり、觀世音菩薩、大勢至菩薩、其の勝友と爲り給ふ、當に道場に坐して、諸佛の家に生ずべし、佛阿難に告げ給はく、汝好く是

の語を持って、是の語を持つといふは、即ち是れ無量壽佛の名を持ってとなり、佛此の語を説き給ふ時に、尊者目犍連、阿難及び韋提希等、佛の所説を開きて、皆大きに歡喜す。

爾の時に世尊、足虚空を歩みて、耆闍崛山に還り給へぬ、爾の時に阿難、廣く大衆の爲めに、上の如きの事を説く、無量の諸天、及び龍夜叉、佛の所説を聞きて皆大きに歡喜して、佛を禮して退く。

佛ぶつ說せつ觀くわん無む量りやう壽じゆ經ぎやう

佛說阿彌陀經

佛說阿彌陀經

姚秦三藏法師鳩摩羅什奉詔譯

如是我聞。一時佛在舍衛國祇樹
給孤獨園。與大比丘衆千二百五
十人俱。皆是摩訶目犍連、摩訶
長者舍利弗、摩訶迦葉、摩訶
多、周利槃陀伽、難陀、阿難、
羅、憍梵波提、賓頭盧頗羅墮、
留

佛說阿彌陀經

姚秦の三藏法師鳩摩羅什
詔を奉りて譯す

是の如き我れ聞き給ひき、一時佛、
舍衛國の祇樹給孤獨園に在しまし
て、大比丘衆、千二百五十人と俱な
りき、皆是れ大阿羅漢なり、衆に知
識せられたり、長老舍利弗、摩訶目
犍連、摩訶迦葉、摩訶迦旃延、摩訶
俱絺羅、離婆多、周利槃陀伽難陀、
阿難陀、羅睺羅、憍梵波提、賓頭盧
頗羅墮、迦留陀夷、摩訶劫賓那、薄

二
 陀夷摩訶劫賓那薄拍羅阿菟樓
 馱如是等諸大弟子并諸菩薩摩
 訶薩文殊師利法王子阿逸多菩
 薩乾陀訶提菩薩常精進菩薩與
 如是等諸大菩薩及釋提桓因等
 無量諸天大衆俱
 爾時佛告長者舍利弗從是西方
 過十萬億佛土有世界名曰極樂
 其土有佛號阿彌陀今現在說法
 舍利弗彼土何故名爲極樂其國

拘羅、阿菟樓馱、是の如き等の、諸の
 大弟子、并に諸の菩薩摩訶薩、文
 殊師利法王子、阿逸多菩薩、乾陀訶
 提菩薩、常精進菩薩、是の如き等
 の、諸の大菩薩、及び釋提桓因等
 の無量諸天大衆と俱なりき。
 爾の時佛長老舍利弗に告げ給はく、
 是れ從り西方、十萬億の佛土を過ぎ
 て、世界有り、名けて極樂と曰ふ、
 其の土に有します佛、阿彌陀と號す、
 今現在に在しまして法を説き給ふ、舍
 利弗、彼の土を何が故ぞ、名けて極

三
 衆生無有衆苦但受諸樂故名極
 樂
 又舍利弗極樂國土七重欄楯七
 重羅網七重行樹皆是四寶周而
 圍繞是故彼國名曰極樂
 又舍利弗極樂國土有七寶池八
 功德水充滿其中池底純以金沙
 布地四邊階道金銀瑠璃玻瓈合
 成上有樓閣亦以金銀瑠璃玻瓈
 磲磔赤珠碼磔而嚴飾之池中蓮

樂と爲る、其の國の衆生、衆の苦
 有ること無し、但だ諸の樂を受く、
 故に極樂と名く。
 又舍利弗、極樂國土に、七重の欄楯、
 七重の羅網、七重の行樹あり、皆是れ
 四寶をもて、周而し圍繞せり、是の
 故に彼の國を、名けて極樂と曰す。
 又舍利弗、極樂國土には、七寶の池
 あり、八功德水、其の中に充滿せり、
 池の底には純ら金沙を以て地に布け
 り、四邊に階道あり、金銀瑠璃、玻
 瓈合成せり、上に樓閣有り、亦金銀

四

華大如車輪青色青光黃色黃光
 赤色赤光白色白光微妙香潔舍
 利弗極樂國土成就如是功德莊
 嚴
 又舍利弗彼佛國土常作天樂黃
 金爲地晝夜六時而雨曼陀羅華
 其國衆生常以清旦各以衣被盛
 衆妙華供養他方十萬億佛即以
 食時還到本國飯食經行舍利弗
 極樂國土成就如是功德莊嚴

瑠璃、玻璃、磲磔、赤珠、碼磔を以て、
 之を嚴飾せり、池の中の蓮華、大さ
 さ車輪の如し、青き色には青き光あ
 り、黄な色には黄なる光あり、赤
 き色には赤き光あり、白き色には白
 き光あり、微妙香潔なり、舍利弗、
 極樂國土には、是の如きの功德莊嚴
 を成就せり。
 又舍利弗、彼の佛國土には、常に天
 の樂を作す、黄金を地とす、晝夜六
 時に、曼陀羅華を雨る、其の國の衆
 生、常に清旦を以て、各衣被を以

五

復次舍利弗彼國常有種種奇妙
 雜色之鳥白鵠孔雀鸚鵡舍利迦
 陵頻伽共命之鳥是諸衆鳥晝夜
 六時出和雅音其音演暢五根五
 力七菩提分八聖道分如是等法
 其土衆生聞是音已皆悉念佛念
 法念僧舍利弗汝勿謂此鳥實是
 罪報所生所以者何彼佛國土無
 三惡趣舍利弗其佛國土尚無三
 惡道之名何況有實是諸衆鳥皆

て、衆の妙華を盛れて、他方の十萬
 億の佛を供養し上る、即ち食時を以
 て、本國に還り到りて、飯食し經行
 す、舍利弗、極樂國土には、是の如
 きの功德莊嚴を成就せり。
 復た次に舍利弗、彼の國には常に、
 種種奇妙、雜色の鳥有り、白鵠孔雀、
 鸚鵡舍利、迦陵頻伽、共命の鳥なり、
 是の諸の衆鳥、晝夜六時に、和雅の
 音を出す、其の音五根五力、七菩提
 分、八聖道分、是の如き等の法を演
 暢す、其の土の衆生、是の音を聞き

六
 是阿彌陀佛欲令法音宣流變化
 所作舍利弗彼佛國土微風吹動
 諸寶行樹及寶羅網出微妙音譬
 如百千種樂同時俱作聞是音者
 皆自然生念佛念法念僧之心舍
 利弗其佛國土成就如是功德莊
 嚴
 舍利弗於汝意云何彼佛何故號
 阿彌陀舍利弗彼佛光明無量照
 十方國無所障礙是故號爲阿彌

已りて、皆悉く佛を念じ法を念じ僧
 を念ず、舍利弗、汝此鳥は、實に是
 れ罪報の所生なりと謂ふこと勿れ、
 所以は何ん、彼の佛國土には、三惡
 趣無ければなり、舍利弗、其の佛國
 土には、尙ほ三惡道の名無し、何に況
 んや實に是の諸の衆鳥有らんや、皆
 是れ阿彌陀佛、法音をして宣流せし
 めんと欲して、變化して作し給ふ所
 なり、舍利弗、彼の佛國土には、微
 風諸の寶、行樹、及び寶羅網を吹
 き動かすに、微妙の音を出す、譬へ

七
 陀又舍利弗彼佛壽命及其人民
 無量無邊阿僧祇劫故名阿彌陀
 舍利弗阿彌陀佛已成無量無邊
 十劫又舍利弗彼佛有無量無邊
 聲聞弟子皆阿羅漢非是算數之
 所能知諸菩薩衆亦復如是舍利
 弗彼佛國土成就如是功德莊嚴
 又舍利弗極樂國土衆生者皆
 是阿鞞跋致其中多有生補處
 其數甚多非是算數所能知之但

ば百千種の樂の、同時に俱に作すが
 如し、是の音を聞く者、皆自然に、
 念佛、念法念僧の心を生ず、舍利弗、
 其の佛の國土には、是の如きの、功
 徳莊嚴を成就せり。
 舍利弗、汝が意に於て如何、彼の佛
 を何故ぞ、阿彌陀と號する、舍利弗、
 彼の佛の光明、無量にして、十方の
 國を照すに、障礙する所無し、是の
 故に號して阿彌陀とす、又舍利弗、
 彼の佛の壽命及び其の人民、無量無
 邊、阿僧祇劫なり、故に阿彌陀と

可^カ以^イ無^ム量^{リヤウ}無^ム邊^{ヘン}阿^ア僧^{ソウ}祇^キ劫^{コウ}說^{セツ}舍^シ利^リ
 弗^フ衆^{シュ}生^{シヤウ}聞^{モン}者^{シャ}應^{オウ}當^{ダウ}發^{ハツ}願^{ガン}願^{ガン}生^{シヤウ}彼^ヒ國^{コク}
 所^ソ以^イ者^{シャ}何^ガ得^{トク}與^ヨ如^ニ是^セ諸^{シヨ}上^{シヤウ}善^{ゼン}人^{ニン}俱^ク
 會^エ一^{ヒト}處^{シヨ}舍^{シヤ}利^リ弗^フ不^フ可^カ以^イ少^{セウ}善^{ゼン}根^{ゲン}福^{フク}
 德^{トク}因^{イン}緣^{エン}得^{トク}生^{シヤウ}彼^ヒ國^{コク}
 舍^{シヤ}利^リ弗^フ若^{ニヤク}有^ウ善^{ゼン}男^{ナン}子^シ善^{ゼン}女^{ニョ}人^{ニン}聞^{モン}說^{セツ}
 阿^ア彌^ミ陀^タ佛^{フツ}執^{シツ}持^チ名^{ミヤウ}號^{ガウ}若^{ニヤク}一^{ヒト}日^{ニチ}若^{ニヤク}二^ニ
 日^{ニチ}若^{ニヤク}三^{サム}日^{ニチ}若^{ニヤク}四^シ日^{ニチ}若^{ニヤク}五^ゴ日^{ニチ}若^{ニヤク}六^{ロク}日^{ニチ}
 若^{ニヤク}七^{シチ}日^{ニチ}一^{ヒト}心^{シン}不^フ亂^{ラン}其^キ人^{ニン}臨^{リン}命^{メイ}終^{シュウ}時^ツ
 阿^ア彌^ミ陀^タ佛^{フツ}與^ヨ諸^{シヨ}聖^{シヤウ}衆^{シュ}現^{ゲン}在^{ザイ}其^キ前^{ゼン}是^セ

名^{ナツ}く、舍^{シヤリ}利^リ弗^フ、阿^ア彌^ミ陀^タ佛^{フツ}、成^{ジヤウ}佛^{フツ}よ
 己^{ココ}來^{カタ}、今^{イマ}に十^{ジユウ}劫^{コウ}なり、又^{マタ}舍^{シヤリ}利^リ弗^フ、彼^カ
 の佛^{ボツ}に、無^ヒ量^{リヤウ}無^ム邊^{ヘン}、聲^{シヤウ}聞^{モン}の弟^{テイ}子^シ有^{アル}り、
 皆^{みな}阿^ア羅^ラ漢^{カン}なり、是^これ算^{サン}數^{ジユ}の能^ユく知^ルる
 所^{ところ}に非^{あら}ず、諸^{しよ}の菩^ボ薩^{サツ}衆^{シュ}も、亦^{また}復^{ハツ}た是^{かく}
 の如^{ごと}し、舍^{シヤリ}利^リ弗^フ、彼^カの佛^{ボツ}國^{コク}土^トには、
 是^{かく}の如^{ごと}き功^ク德^{トク}莊^{シヤウ}嚴^{エン}を成^{ジヤウ}就^{ジュ}せり。
 又^{また}舍^{シヤリ}利^リ弗^フ、極^{ごく}樂^{らく}國^{こく}土^との衆^{しゆ}生^{じやう}と生^むる
 者^{もの}は、皆^{みな}是^これ阿^ア鞞^{ニヤク}跋^{ハツ}致^チなり、其^その中^{なか}
 に多^{おほ}く、一^{いち}生^{しやう}補^ふ處^{ふしよ}有^あり、其^その數^{かず}甚^はだ
 多^{おほ}し、是^これ算^{サン}數^{ジユ}の能^ユく之^{これ}を知^ルる所^{ところ}に
 非^{あら}ず、但^ただ無^{リヤウ}量^{リヤウ}無^ム邊^{ヘン}、阿^ア僧^{ソウ}祇^キ劫^{コウ}を以^も

人^{ニン}終^{シュウ}時^ツ心^{シン}不^フ顛^{テン}倒^{ダウ}即^{ソク}得^{トク}往^{ワウ}生^{シヤウ}阿^ア彌^ミ
 陀^タ佛^{フツ}極^{ごく}樂^{らく}國^{こく}土^と舍^{シヤ}利^リ弗^フ我^ガ見^{ケン}是^セ利^リ
 故^コ說^{セツ}此^シ言^{ゴン}若^{ニヤク}有^ウ衆^{シュ}生^{シヤウ}聞^{モン}是^セ說^{セツ}者^{シャ}應^{オウ}
 當^{ダウ}發^{ハツ}願^{ガン}生^{シヤウ}彼^ヒ國^{コク}土^と
 舍^{シヤ}利^リ弗^フ如^ニ我^ガ今^{イマ}者^{シャ}讚^{サン}歎^{タン}阿^ア彌^ミ陀^タ佛^{フツ}
 不^フ可^カ思^シ議^ギ功^ク德^{トク}東^{トウ}方^{フヤウ}亦^{オウ}有^ウ阿^ア闍^{ニヤク}鞞^{ニヤク}
 佛^{フツ}須^{シュ}彌^ミ相^{サウ}佛^{フツ}大^{ダイ}須^{シュ}彌^ミ佛^{フツ}須^{シュ}彌^ミ光^{クワウ}佛^{フツ}
 妙^{メウ}音^{オン}佛^{フツ}如^ニ是^セ等^{トウ}恒^{コウ}河^カ沙^{シャ}數^{シュ}諸^{シヨ}佛^{フツ}各^{カク}
 於^ナ其^キ國^{コク}出^{シュツ}廣^{クワウ}長^{チャウ}舌^{セツ}相^{サウ}徧^{ペン}覆^{フク}三^{サム}千^{セン}大^{ダイ}
 千^{セン}世^セ界^{カイ}說^{セツ}誠^{シヤウ}實^{シツ}言^{ゴン}汝^{ニョ}等^{トウ}衆^{シュ}生^{シヤウ}當^{ダウ}信^{シン}

て説^とく可^べし、舍^{シヤリ}利^リ弗^フ、衆^{しゆ}生^{じやう}聞^{もん}かん者^{もの}、
 應^{オウ}に願^{ガン}を發^{ハツ}し、彼^カの國^{こく}に生^まれんと願^{わん}
 すべし、所^ゆ以^へは何^{いか}ん、是^{かく}の如^{ごと}き諸^{しよ}
 上^{じやう}善^{ぜん}人^{にん}と、俱^{とも}に一^{いち}處^{ちよ}に會^えするを得^う
 ればなり、舍^{シヤリ}利^リ弗^フ、小^{せう}善^{ぜん}根^{こん}、福^{ふく}德^{とく}の
 因^{いん}緣^{えん}を以^もて彼^カの國^{こく}に生^まることを得^う
 可^べからず。
 舍^{シヤリ}利^リ弗^フ、若^{ニヤク}し善^{ぜん}男^{なん}子^し善^{ぜん}女^{にょ}人^{にん}有^ありて、
 阿^ア彌^ミ陀^タ佛^{フツ}を説^とくを聞^ききて、名^{みやう}號^{がう}を執^{しよ}
 持^ぢすること、若^{ニヤク}しは一^{いち}日^{にち}、若^{ニヤク}しは二^に
 日^{にち}、若^{ニヤク}しは三^{さん}日^{にち}、若^{ニヤク}しは四^し日^{にち}、若^{ニヤク}し
 は五^ご日^{にち}、若^{ニヤク}しは六^{ろく}日^{にち}、若^{ニヤク}しは七^{しち}日^{にち}、

是稱讚不可思議功德一切諸佛。所護念經。舍利弗。南方世界有日月燈佛。名聞光佛。大焰肩佛。須彌燈佛。無量精進佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出廣長舌相。徧覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不可思議功德一切諸佛。所護念經。舍利弗。西方世界有無量壽佛。無

一心にして、亂れざれば、其の人命終の時に臨みて、阿彌陀佛、諸の聖と衆現じて、其の前に在しませさん、是の人終らん時、心顛倒せずして、即ち阿彌陀佛の、極樂國土に、往生することを得ん、舍利弗、我れ是の利を見るが故に、此の言を説く、若し衆生有りて、是の説を聞ん者應當に願を發し、彼の國土に生ずべし。舍利弗、我今者阿彌陀佛の、不可思議の功德を讚歎するが如く、東方に亦た、阿閼鞞佛、須彌相佛、大須彌

量相佛。無量幢佛。大光佛。大明佛。寶相佛。淨光佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出廣長舌相。徧覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不可思議功德一切諸佛。所護念經。舍利弗。北方世界有焰肩佛。最勝音佛。難沮佛。日生佛。網明佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出廣長舌相。徧覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不可思議功德一切諸佛。所護念經。舍利弗。南方世界有日月燈佛。名聞光佛。大焰肩佛。須彌燈佛。無量精進佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出廣長舌相。徧覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不可思議功德一切諸佛。所護念經。舍利弗。西方世界有無量壽佛。無

佛、須彌光佛、妙音佛、是の如き等の、恆河沙數の諸佛有しまして、各其の國にして、廣長の舌相を出し、徧く三千大千世界に覆ひて、誠實の言を説き給ふ、汝等衆生、當に是の不可思議の功德を稱讚する、一切諸佛に、護念せらるる經を信ずべし。舍利弗、南方世界に、日月燈佛、名聞光佛、大焰肩佛、須彌燈佛、無量精進佛、是の如き等の、恆河沙數の諸佛有しまして、各其の國にして、廣長の舌相を出し、徧く三千大

實言。汝等衆生。當信是稱讚不可思議功德。一切諸佛所護念經。舍利弗。下方世界有師子佛。名聞佛。名光佛。達摩佛。法幢佛。持法佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出廣長舌相。徧覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不可思議功德。一切諸佛所護念經。舍利弗。上方世界有梵音佛。宿王

千世界に覆ひて、誠實の言を説き給ふ、汝等衆生、當に是の不可思議の功徳を稱讚する、一切諸佛に、護念せらるる經を信ずべし。舍利弗、西方の世界に、無量壽佛、無量相佛、無量幢佛、大光佛、大明佛、寶相佛、淨光佛、是の如き等の恆河沙數の諸佛有しまして、各其の國にして、廣長の舌相を出し、徧く三千大千世界に覆ひて、誠實の言を説き給ふ、汝等衆生、當に是の不可思議功徳を稱讚する、一切諸佛に、

佛。香上佛。香光佛。大焰肩佛。雜色寶華嚴身佛。婆羅樹王佛。寶華德佛。見一切義佛。如須彌山佛。如是等恆河沙數諸佛。各於其國。出廣長舌相。徧覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信是稱讚不可思議功德。一切諸佛所護念經。舍利弗。於汝意云何。故名為一男子。善女人。聞是諸佛所說名及

護念せらるる經を信ずべし。舍利弗、北方の世界に、焰肩佛、最勝音佛、難沮佛、日生佛、網明佛、是の如き等の、恆河沙數の諸佛有しまして、各其の國にして、廣長の舌相を出し、徧く三千大千世界に覆ひて、誠實の言を説き給ふ、汝等衆生、當に是の不可思議功徳を稱讚する、一切諸佛に、護念せらるる經を信ずべし。舍利弗、下方の世界に、師子佛、名聞佛、名光佛、達摩佛、法幢佛、持

經名者。是諸善男子。善女人。皆爲一切諸佛。共所護念。皆得不退轉。於阿耨多羅三藐三菩提。是故舍利弗。汝等皆當信受我語。及諸佛所說。舍利弗。若有人。已發願。今發願。當發願。欲生阿彌陀佛國者。是諸人等。皆得不退轉。於阿耨多羅三藐三菩提。於彼國土。若已生。若今生。若當生。是故舍利弗。諸善男子。善女人。若有信者。應當發願。生

法佛、是の如き等の、恒河沙數の諸佛有しまして、各其の國にして、廣長の舌相を出し、徧く三千大千世界に覆ひて、誠實の言を説き給ふ、汝等衆生、當に是の不可思議功德を稱讚する、一切諸佛に、護念せらるる經を信ず可し。
舍利弗、上方の世界に、梵音佛、宿王佛、香上佛、香光佛、大焔肩佛、雜色寶華嚴身佛、娑羅樹王佛、寶華德佛、見一切義佛、如須彌山佛、是の如き等の、恒河沙數の諸佛有しま

彼國土。舍利弗。如我今者。稱讚諸佛。不可思議功德。彼諸佛等。亦稱說我。不可思議功德。而作是言。釋迦牟尼佛。能爲甚難。希有之事。能於娑婆國土。五濁惡世。劫濁見濁。煩惱濁。衆生濁。命濁中。得阿耨多羅三藐三菩提。爲諸衆生說。是一切世間。難信之法。舍利弗。當知我於五濁惡世。行此難事。得阿耨多羅三藐

して、各其の國にして、廣長の舌相を出し、徧く三千大千世界に覆ひて、誠實の言を説き給ふ、汝等衆生、當に是の不可思議功德を稱讚する、一切諸佛に、護念せらるる經を信ずべし。
舍利弗、汝が意に於て云何、何が故ぞ名けて、一切諸佛に、護念せらるる經と爲る、舍利弗、若し善男子善女人ありて、是の諸佛の所説の名及び經の名を聞かん者、是の諸の善男子善女人、皆一切諸佛の爲めに、共

三菩提爲一切世間說此難信之法。是爲甚難。佛說此經已。舍利弗及諸比丘。一切世間天人阿脩羅等。聞佛所說。歡喜信受。作禮而去。

佛說阿彌陀經

に護念せられて、皆阿耨多羅三藐三菩提を退轉せざることを得、是の故に舍利弗、汝等皆當に、我が語及び諸佛の所説を信受すべし、舍利弗、若し人有りて、已に願を發し、今願を發し、當に願を發し、阿彌陀佛國に生れんと欲はん者は、是の諸の人等、皆阿耨多羅三藐三菩提を、退轉せざることを得て、彼の國土に於て、若しは已に生じ、若しは今生じ、若しは當に生ぜん、是の故に舍利弗、諸の善男子善女人、若し信有らん

者は、應當に願を發して彼の國土に生ずべし。

舍利弗、我が今者、諸佛の不可思議功德を稱讚する如く、彼の諸佛等も、亦た我が不可思議の功德を稱説して、是の言を作さく、釋迦牟尼佛、能く甚難、希有の事を爲して、能く娑婆國土の、五濁惡世、劫濁、見濁、煩惱濁、衆生濁、命濁の中にして、阿耨多羅三藐三菩提を得て、諸の衆生の爲めに、是の一切世間に、信じ難きの法を説き給ふ、舍利弗、當に知べし、我れ、五濁惡世にして、此の難事を行じて、阿耨多羅三藐三菩提を得て、一切世間の爲めに、此の難信の法を説く、是を甚だ難しとす、佛此の經を説き給ふこと已りて、舍利弗、及び諸の比丘、一切世間の、天人阿脩羅等、佛の所説を聞き給へて、歡喜信受して、禮を作して去りにき。

佛說阿彌陀經

正念
念佛
正信
念佛
偈

正信念佛偈

歸命無量壽如來
南無不可思議光
法藏菩薩因位時
在世自在王佛所
親見諸佛淨土因
國土天之善惡
建立無上殊勝願
超發希有大弘誓

正信念佛偈

無量壽如來二歸命
不可思議光二南無
法藏菩薩因位ノ時
世自在王佛ノ所ニ在シテ
諸佛ノ淨土ノ因
國土天ノ善惡ヲ親見シテ
無上殊勝ノ願ヲ建立シ
希有ノ大弘誓ヲ超發セリ

念佛正信偈

西方不可思議尊
法藏菩薩因位中
超發殊勝本弘誓
建立無上大悲願
思惟攝取經五劫
菩提妙果酬上願
滿足本誓歷十劫
壽命延長莫能量
慈悲深遠如虛空

五劫思惟之攝受
重誓名聲聞十方
普放无量无边光
无碍无对光炎王
清淨歡喜智慧光
不斷難思无称光
超日月光照塵刹
一切群生蒙光照
本願名號正定業
至心信樂願爲因

五劫ニ之レヲ思惟シテ攝受シ玉フ
重子テ誓フラクハ名聲十方ニ聞ヘント
普子ク無量無邊光
無碍無對光炎王
清淨觀喜智慧光
不斷難思無稱光
超日月光ヲ放チテ塵刹ヲ照スニ
一切ノ群生光ヲ照ラ蒙ル
本願ノ名號ハ正定ノ業ナリ
至心信樂ノ願ヲ因ト爲ス

智惠圓滿如巨海
清淨微妙無邊刹
廣大莊嚴等具足
種々功德悉成滿
超逾十方諸佛國
普放難思无碍光
能破無明大夜闇
智光明朗開慧眼
名聲靡不聞十方
如來功德唯佛知

成等覺証大涅槃
必至滅度願成就
如來所以興出世
唯說彌陀本願海
五濁惡時群生海
應信如來如實言
能發一念喜愛心
不斷煩惱得涅槃
凡聖逆謗齊廻入
如衆水入海一味

等覺ヲ成ジ大涅槃ヲ證スルコトハ
必至滅度ノ願成就シ玉ヘバナリ
如來世ニ興出シ玉フ所以ハ
唯彌陀ノ本願海ヲ説ムトナリ
五濁惡時ノ群生海
應ニ如來如實ノ言ヲ信ズベシ
能ク一念喜愛ノ心ヲ發スレバ
煩惱ヲ斷ゼズシテ涅槃ヲ得ルナリ
凡聖逆謗齊シク廻入スレバ
衆水ノ海ニ入リテ一味ナルガ如シ

集佛法藏施凡愚
彌陀佛日普照耀
已能雖破无明闇
貪愛瞋嫌之雲霧
常覆清淨信心天
譬猶如日月星宿
雖覆煙霞雲霧等
其雲霧下明無闇
信知超日月光益
必至無上淨信曉

攝取心光常照護
 已能雖破无明闇
 貪愛瞋憎之雲霧
 常覆眞實信心天
 譬如日光覆雲霧
 雲霧之下明无闇
 獲信見敬大慶喜
 即橫超截五惡趣
 一切善惡凡夫人
 聞信如來弘誓願
 佛言廣大勝解者

攝取ノ心光ハ常ニ照護シテ
 已ニ能ク無明ノ闇ヲ破スト雖モ
 貪愛瞋憎ノ雲霧
 常ニ眞實信心ノ天ヲ覆ヘリ
 譬バ日光ノ雲霧ニ覆ハルレモ
 雲霧ノ下明ニシテ闇ナキガ如シ
 信ヲ獲テ見テ敬ヒ大ニ慶喜スレバ
 即チ横ニ五惡趣ヲ超截ス
 一切善惡ノ凡夫人
 如來ノ弘誓願ヲ聞信スレバ
 佛ハ廣大勝解ノ者ト言ヘリ

三有生死之雲晴
 清淨无尋光耀朗
 一如法界眞身顯
 發信稱名光攝護
 亦獲現生無量德
 無邊難思光不斷
 更无隔時處諸緣
 諸佛護念眞莫疑
 十方同稱讚悅可
 惑染逆惡齊皆生

是人名分陀利華
 彌陀佛本願念佛
 邪見憍慢惡衆生
 信樂受持甚以難
 難中之難无過斯
 印度西天之論家
 中夏日域之高僧
 顯大聖興世正意
 明如來本誓應機
 釋迦如來楞伽山

是人ノ人ヲ分陀利華ト名ツク
 彌陀佛ノ本願念佛ハ
 邪見ト憍慢ト惡ノ衆生
 信樂受持スルコト甚ダ以テ難シ
 難中ノ難スレニ過グルハ無シ
 印度西天ノ論家
 中夏日域ノ高僧
 大聖興世ノ正意ヲ顯ハシ
 如來ノ本誓機ニ應ズルヲ明ス
 釋迦如來楞伽山ニシテ

謗法闡提迴皆往
 當來之世經道滅
 特留此經住百歲
 如何疑惑斯大願
 唯信釋迦如實言
 印度西天之論家
 中夏日域之高僧
 開大聖世雄正意
 如來本誓明應機
 釋迦如來楞伽山

爲衆告命南天竺
龍樹大士出於世
悉能摧破有無見
宣說大乘无上法
證歡喜地生安樂
顯示難行陸路苦
信樂易行水道樂
憶念彌陀佛本願
自然即時入必定
唯能常稱如來號

衆ノ爲メニ告命シ玉ハク南天竺ニ
龍樹大士世ニ出デ、
悉ク能ク有無ノ見ヲ摧破セム
大乘無上ノ法ヲ宣說シ
歡喜地ヲ證シテ安樂ヲ生ゼント
難行ノ陸路苦キヲ顯示シテ
易行ノ水道樂キヲ信樂セシム
彌陀佛ノ本願ヲ憶念スレバ
自然ニ即時ニ必定ニ入ル
唯ダ能ク常ニ如來ノ號ヲ稱シテ

爲衆告命南天竺
龍樹菩薩興出世
悉能摧破有無見
宣說大乘无上法
證歡喜地生安樂
造十住毘婆娑論
難行嶮路特悲憐
易行大道廣開示
應以恭敬心執持
稱名號疾得不退

應報大悲弘誓恩
天親菩薩造論說
歸命无導光加來
依修多羅顯眞實
光闡橫超大誓願
廣由本願力廻向
爲度群生彰一心
歸入功德大寶海
必獲入大會衆數
得至蓮華藏世界

應ニ大悲弘誓ノ恩ヲ報スベシト云ヘリ
天親菩薩論ヲ造リテ說カク
無導光如來ニ歸命シ上ル
修多羅ニ依リテ眞實ヲ顯ハシテ
橫超ノ大誓願ヲ光闡ス
廣ク本願力ノ廻向ニ由リテ
群生ヲ度セムガ爲メニ一心ヲ彰ハス
功德大寶海ニ歸入スレバ
必ズ大會衆ノ數ニ入ルヲ獲
蓮華藏世界ニ至ルヲ得レバ

信心清淨即見佛
天親菩薩作論說
依修多羅顯眞實
光闡橫超本弘誓
演暢不可思議願
由本願力廻向故
爲度具縛彰一心
歸入功德大寶海
必獲入大會衆數
得至蓮華藏世界

即證眞如法性身
遊煩惱林現神通
入生死藪示應化
本師曇鸞梁天子
常向鸞處菩薩禮
三藏流支授淨教
焚燒仙經歸樂邦
天親菩薩論註解
報土因果顯誓願
往還迴向由他力

即チ眞如法性ノ身ヲ證セシムト
煩惱ノ林ニ遊ンデ神通ヲ現ジ
生死ノ藪ニ入りテ應化ヲ示スト云ヘリ
本師曇鸞ハ梁ノ天子
常ニ鸞處ニ向ツテ菩薩ト禮シ玉ヘリ
三藏流支淨教ヲ授ケシカバ
仙經ヲ焚燒シテ樂邦ニ歸シ玉ヒキ
天親菩薩ノ論ヲ註解シテ
報土ノ因果ヲ誓願ニ顯ハス
往還ノ回向ハ他力ニ由ル

即證寂滅平等身
遊煩惱林現神通
入生死藪示應化
曇鸞大師梁蕭王
常向鸞方菩薩禮
三藏流支授淨教
焚燒仙經歸樂邦
天親菩薩論註解
如來本願顯稱名
往還迴向由本誓

正定之因唯信心
惑染凡夫信心發
證知生死即涅槃
必至無量光明土
諸有衆生皆普化
道綽決聖道難證
唯明淨土可通入
萬善自力勤修
圓滿德號專稱
三不三信誨慇懃

正定ノ因ハ唯信心ナリ
惑染ノ凡夫信心發スレバ
生死即涅槃ナリト證知セシム
必至無量光明土ニ至レバ
諸有ノ衆生皆普ネク化スト云ヘリ
道綽聖道ノ證シ難キヲ決シテ
唯ダ淨土ニ通入スベキヲ明ス
萬善ノ自力勤修ヲ修ス
圓滿ノ德號專稱ヲ勸ム
三不三信ノ誨ハ慇懃ニシテ

煩惱成就凡夫人
信心開發即獲忍
證知生死即涅槃
必至無量光明土
諸有衆生皆普化
道綽決聖道難證
唯明淨土可通入
萬善自力勤修
圓滿德號專稱
三不三信誨慇懃

像未法滅同悲引
一生造惡值弘誓
至安養界證妙果
善導獨明佛正意
矜哀定散與逆惡
光明名號顯因緣
開入本願大智海
行者正受金剛心
慶喜一念相應後
與韋提等獲三忍

像未法滅同ジク悲引ス
一生惡ヲ造レテ弘誓ニ値ヒヌレバ
安養界ニ至リテ妙果ヲ證セシムト云リ
善導獨リ佛ノ正意ヲ明セリ
定散ト逆惡トヲ矜哀シテ
光明名號ノ因緣ヲ顯ハス
本願ノ大智海ニ開入スレバ
行者正シク金剛心ヲ受ケシム
慶喜ノ一念相應ノ後
韋提ト等シク三忍ヲ獲

像未法滅同悲引
一生造惡遇弘誓
至安養界證妙果
善導獨明佛正意
深藉本願興真宗
矜哀定散與逆惡
光明名號示因緣
入涅槃門值真心
必獲於信喜悟忍
得難思議往生人

即證法性之常樂
源信廣開一代教
偏歸安養勸一切
專雜執心判淺深
報化二土正辨立
極重惡人唯稱佛
我亦在彼攝取中
煩惱彰眼雖不見
大悲无倦常照我
本師源空明佛教

即チ法性ノ常樂ヲ證セシムト云ヘリ
源信廣ク一代ノ教ヲ開キテ
偏ヘニ安養ニ歸シテ一切ヲ勸ム
專雜ノ執心淺深ヲ判ジテ
報化二土ヲ正シク辨立セリ
極重ノ惡人ハ唯ダ佛ヲ稱スベシ
我亦彼ノ攝取ノ中ニ在レテ
煩惱眼ヲ障ヘテ見上ツラズト雖モ
大悲倦ム無メ常ニ我ヲ照シ玉フト云リ
本師源空ハ佛教ニ明ニシテ

即證法性之常樂
源信廣開一代教
偏歸安養勸一切
依諸經論撰教行
誠是爲濁世目足
決判得失於專雜
迴入念佛眞實門
唯定淺深於執心
報化二土正辨立
源空曉了諸聖典

<p>憐愍善惡凡人夫 眞宗教證興片州 選擇本願弘惡世 還來生死輪轉家 決以疑情爲所止 速入寂靜无爲樂 必以信心爲能入 弘經大士宗師等 拯濟无邊極濁惡 道俗時衆共同心</p>	<p>善惡ノ凡人ヲ憐愍セシム 眞宗ノ教證ヲ片州ニ興シ 選擇ノ本願ヲ惡世ニ弘ム 生死輪轉ノ家ニ還來ルハ 決スルニ疑情ヲ以テ所止トシ 速カニ寂靜無爲ノ樂ニ入ルハ 必ズ信心ヲ以テ能入トスト云ヘリ 弘經ノ大士宗師等 無邊ノ極濁惡ヲ拯濟シ玉フ 道俗時衆共ニ同心ニ</p>	<p>憐愍善惡凡人夫 眞宗教證興片州 選擇本願施濁世 還來生死流轉家 決以疑情爲所止 速入寂靜无爲樂 必以信心爲能入 論說師釋共同心 拯濟無邊極濁惡 通俗時衆皆悉共</p>
--	--	--

唯可信斯高僧說

唯ダ斯ノ高僧ノ說ヲ信ズ可シ

唯可信斯高僧說

正シヤウ信シン念ン佛キム偈アツ

正シヤウ信シン念ン佛キム偈アツ

念ン佛キム正シヤウ信シン偈アツ

御
和
讚

淨
土
和
讚

御和讃上

彌陀ノ名號トナヘツ、

信心マコトニウルヒトハ

憶念ノ心ツ子ニシテ

佛恩報スルオモヒアリ

誓願不思議ヲウタカヒテ

御名ヲ稱スル往生ハ

宮殿ノウチニ五百歳

ムナシクスクトソトキタマウ

讚阿彌陀佛偈曰

曇鸞御造

南無阿彌陀佛

釋名ニ无量壽傍經

奉讚亦曰安養

成佛已來 歷十劫

壽命方將 无有量

法身光輪 徧法界

照世盲冥 故頂禮

又号无量光 二眞實明

又号无邊光 四平等覺

五 又号无导光
六 難思議
七 又号无對光
八 畢竟依
九 又号光炎王
十 大應供
十一 又号清淨光
十二 又号觀喜光
十三 大安慰
十四 又号智慧光
十五 又号不斷光
十六 又号難思光
十七 又号无稱光
十八 号超日月光
十九 无等等
二十 廣大會
廿一 大心海
廿二 无上尊
廿三 大心力
廿四 平等力

廿五 无稱佛
廿六 講堂
廿七 不可思議尊
廿八 眞无量
廿九 本願功德聚
三十 功德藏
卅一 南无不可思議光
卅二 十住毘婆沙論曰
卅三 自在人
卅四 无量德
卅五 婆伽婆
卅六 清淨大攝受
卅七 道場樹
卅八 清淨樂
卅九 清淨勳
四十 无極尊
四十一 已上
四十二 清淨人命
四十三 已上

讚阿彌陀佛偈和讚

南无阿彌陀佛

愚禿親戀作

○彌陀成佛ノユノカタハ

イマニ十劫ヲヘタマヘリ

法身ノ光輪キハモナク

世ノ盲冥ヲテラスナリ

智慧ノ光明ハカリナシ

有量ノ諸相コトク

光曉カフヲヌモノハナシ

眞實明ニ歸命セヨ

御和讃

解脱ノ光輪キハモナシ

光觸カフルモノハミナ

有死ヲハナルトノヘタマフ

平等覺ニ歸命セヨ

光雲无導如虚空

一切ノ有導ニサハリナシ

光澤カフヲヌモノソナキ

難思議ヲ歸命セヨ

清淨光明ヲヒナシ

遇斯光ノユヘナレハ

二七五

一切ノ業繫モノソコリヌ

「罪の繩に縛らるゝなり」

畢竟依テ歸命セヨ

佛光照曜最第一

光炎王佛トナツケタリ

三塗ノ黒闇ヒラクナリ

「地獄、餓鬼、畜生、暗き闇なり」

大應供ヲ歸命セヨ

「彌陀如來なり」

◎道光明朗超絶セリ

「彌陀の光り明かに超れたりとなり」

清淨光佛トマフスナリ

ヒトタヒ光照カフルモノ

「光りに照らさるとなり」

業垢チノソキ解脱チウ

「惡業煩惱なり、悟りを開くなり」

慈光ハルカニカフラシメ

ヒカリノイタルトコロニハ

法喜チウトソノヘタマフ

「御法を喜ぶなり」

大安慰ヲ歸命セヨ

无明ノ闇ヲ破スルユヘ

智慧光佛トナツケタリ

一切諸佛三乗衆

トモニ嘆譽シタマヘリ

「讃め譽むるなり」

光明テラシテタヘサレハ

不斷光佛トナツケタリ

聞光力ノユヘナレハ

「彌陀の御誓ひを信じまいらするなり」

心不斷ニテ往生ス

「彌陀の誓願を信ぜる心絶へずして往生すとなり」

佛光測量チキユヘニ

難思光佛トナツケタリ

諸佛ハ往生嘆シツ、

彌陀ノ功德ヲ稱セシム

神光ノ離相ヲトカサレハ

「先覺光佛の御かたちを云ひ開くことなしとなり」

无稱光佛トナツケタリ

因光成佛ノヒカリチハ

「光り際ながら人と誓ひ玉ひて無母光佛となりて在はずと知るべし」

諸佛ノ嘆スルトコロナリ

「讃め玉ふなり」

◎光明月日ニ勝過シテ

超日月光トナツケタリ

釋迦嘆シテナツキス

无等等ヲ歸命セヨ

彌陀初會ノ聖衆ハ
「彌陀の佛に成り玉ひし時集まり玉ひし
聖衆の多きことなり」

算數ノチヨフコトソナキ

淨土チ子カハンヒトハミナ

廣大會ヲ歸命セヨ

安樂無量ノ大菩薩

一生補處ニイタルナリ

普賢ノ徳ニ歸シテコソ

穢國ニカナラス化スルナレ

十方衆生ノタメニトテ

如來ノ法藏アツメテソ

本願弘誓ニ歸セシムル

大心海ヲ歸命セヨ

觀音勢至モロトモニ

慈光世界ヲ照耀シ

有緣ヲ度シテシハラクモ

休息アルコトナカリケリ

安樂淨土ニイタルヒト

五濁惡世ニカヘリテハ

釋迦牟尼佛ノコトクニテ

利益衆生ハキハモナシ

④ 神力自在ナルコトハ

測量スヘキコトソナキ

不思議ノ徳チアツメタリ

無上尊ヲ歸命セヨ

安樂聲聞菩薩衆

人天智慧ホカラカニ

身相莊嚴ミナオナシ

他方ニ順シテ名ヲツラヌ

「順ひて人あり天ありと云ふ」

顔容端政タクヒナシ

精微妙軀非人天

「妙なる軀なり人にあらざ天にあらざ」

虚无之身无極體

平等力ヲ歸命セヨ

安樂國チ子カフヒト

正定聚ニユソ住スナレ

邪定不定聚クニ、ナシ

諸佛讚嘆シタマヘリ

十方諸有ノ衆生ハ
阿彌陀至徳ノ御名チキ、

眞實信心シンシツシンイタリナハ

オホキニ所聞シヨモンヲ慶喜キヤウキセン

「信ずることを得て喜ぶとなり」

若不ニヤク生者シヤウシヤノチカヒユヘ

信樂シンラクマコトニトキイタリ

一念ヒチチム慶喜キヤウキスルヒトハ

「信を得て後喜ぶとなり」

往生ワウシヤウカナラスサタマリヌ

⑤ 安樂アンラク佛土フツツノ依正エシヤウハ

法藏ホフサウ願力ガンリキノナセルナリ

天上テンシヤウ天下テンゲニタクヒナシ

大心ダイシン力リキヲ歸命クキミヤウセヨ

安樂アンラク國土コクツノ莊嚴シヤウガンハ

釋迦シヤカ无導ムドウノミコトニテ

トクトモツキシトノヘタマフ
（説くとも盡じと逃べ玉ふ）

无稱ムシヨウ佛フツヲ歸命クキミヤウセヨ

已今イコトイマ當タウノ往生ワウシヤウハ

「過去に生る、今生に生る、未來に生る、なり」

ユノ土ツチノ衆生シュウシヤウノミナラス

十方シウハウ佛土フツツヨリキタル

无量ムリヤウ无數ムスウ不可イカク計ケナリ

阿彌アマヒ陀佛タフツノ御名ミナヲキ、

歡喜クワンキ讚仰サンカウセシムレハ

「讚め仰ぐと云ふ」

功德クツトクノ寶ホウヲ具足クソクシテ

一念ヒチチム大利ダイリ无上ムシヤウナリ

タトヒ大千ダイセン世界セカイニ

ミテラン火ヒヲモスキユキテ

（充てらん火をも過ぎ行きて）

佛ブツノ御名ミナヲキクヒトハ

ナカク不退フタイニカナフナリ

神力シクリキ无極ムゴクノ阿彌アマヒ陀タハ

无量ムリヤウノ諸佛シュフツホメタマフ

東方トウハウ恒沙コウシャノ佛國フツコクヨリ

⑥ 自餘ジヨノ九方クハウノ佛國フツコクモ

「九ツの方の佛土より極樂に生る、なり」

菩薩ハツサツノ往觀ワウカンミナオナシ

「佛を見たてまつる」

釋迦シヤカ牟尼ムニ如來ニヨライ偈ケヲトキテ

无量ムリヤウノ功德クツトクヲホメタマフ

十方シウハウノ无量ムリヤウ菩薩ハツサツ衆シュウ

德本トクホンウヘンタメニトテ

恭敬クウキヤウヲイタシ歌嘆カタンス

ミナヒト婆伽ハカハ婆ハヲ歸命クキミヤウセヨ

七寶講堂道場樹

方便化身ノ淨土ナリ

十方來生キハモナシ

講堂道場禮スヘシ

妙土廣大超數限

本願莊嚴ヨリオユル

清淨大攝受ニ

稽首歸命セシムヘシ

自利利他圓滿シテ

歸命方便巧莊嚴

コ、ロモコトハモタエタレハ

不可思議尊チ歸命セヨ

神力本願及満足

明了堅固究竟願

慈悲方便不思議ナリ

眞無量チ歸命セヨ

寶林寶樹微妙音

自然清和ノ伎樂ニテ

哀婉雅亮スクレタリ

「哀れみ婉み、雅しく亮えたり」

清淨樂チ歸命セヨ

七寶樹林クニ、ミツ

光耀タカヒニカ、ヤケリ

華果枝葉マタオナシ

本願功德聚チ歸命セヨ

清風寶樹チフクトキハ

イツ、ノ音聲イタシツ、

宮商和シテ自然ナリ

清淨勳チ禮スヘシ

一ノハナノナカヨリハ

三十六百千億ノ

光明テラシテホカラカニ

イタラヌトユロハサラニナシ

一ノハナノナカヨリハ

三十六百千億ノ

佛身モヒカリモヒトシクテ

相好金山ノユトクナリ

相好コトニ百千ノ

ヒカリチ十方ニハナチテソ

ツ子ニ妙法トキヒロメ

世尊ノ威光ヲ瞻仰シ

ミタナマツル「瞻奉る」

生希有心トオトロカシ

「有り難き心と云ふ」

未曾有トソアヤシミシ

「イマダムカシミタマツラス」未だ昔見たてまつらず」

如來ノ光瑞希有ニシテ

「光り有り難しとなり」

阿難ハナハタコ、ロヨク

如是之義トトヘリシニ

出世ノ本意アラハセリ

「佛の世に出て玉ふことなり」

大寂定ニイリタマヒ

如來ノ光顔タヘニシテ

阿難ノ惠見ヲミソナハシ

問斯惠義トホメタマフ

如來興世ノ本意ニハ

本願眞實ヒラキテソ

難値難見トトキタマヒ

「値ひ難く、見たてまつり難しとなり」

猶靈瑞華トシメシケル

「優婆塞の咲くことの稀なる如くとなり」

彌陀成佛ノコノカタハ

イマニ十劫トトキタレト

塵點久遠劫ヨリモ

ヒサシキ佛トミエタマフ

南无不可思議光佛

饒王佛ノミモトニテ

十方淨土ノナカヨリソ

本願選擇攝取スル

⊕ 无導光佛ノヒカリニハ

清淨歡喜智慧光

ソノ徳不可思議ニシテ

十方諸有ヲ利益セリ

至心信樂欲生ト

十方諸有ヲス、メテソ

不思議ノ誓願アラハシテ

眞實報土ノ因トスル

眞實信心ウルヒトハ

スナハチ定聚ノカスニイル

不退ノクラキニイリヌレハ

カナラス滅度ニイタラシム

彌陀ノ大悲フカケレハ

「涅槃の悟りを開くなり」

定散諸機チス、メケリ

① 諸善萬行コトク

至心發願セルユヘニ

往生淨土ノ方便

善トナラヌハナカリケリ

至心迴向欲生ト

二十ノ願ノ十方衆生チ方便

自力ノ名號ノ眞門ヒラキテソ

願シタマヘリ不果遂者ト願シケル

三十ノ佛智ノ不思議チアラハシテ

願ノ變成男子ノ願チタテ

コ、女人成佛チカヒタリ

至心發願欲生ト

十九ノ願ノ十方衆生チ方便

ノ願衆善ノ假門ヒラキテソ

諸行往現其人前ト願シケル

臨終現前ノ願ニヨリ

釋迦ハ諸善チコトク

觀經一部ニアラハシテ

果遂ノ願ニヨリテユソ

釋迦ハ善本徳本チ

彌陀經ニアラハシテ

一乗ノ機チス、メケル

定散自力ノ稱名ハ

果遂ノチカヒニ歸シテユソ

チシヘサレトモ自然ニ

眞如ノ門ニ轉入スル

安樂淨土チチカヒツ、

他力ノ信チエヌヒトハ

佛智ノ不思議チウタカヒテ

邊地懈慢ニトマルナリ

如來ノ興世ニアヒカタク

諸佛ノ經道キ、カタシ

菩薩ノ勝法キクコトモ

无量劫ニモマレラナリ

② 善知識ニアフコトモ

チシフルコトモマタカタシ

ヨクキクコトモカタケレハ

信スルコトモナチカタシ

一代諸教ノ信ヨリモ

弘願ノ信樂ナチカタシ

難中之難トトキタマヒ

无過此難トヘタマフ

念佛成佛コレ眞宗

萬行諸善コレ假門

權實眞假チワカスシテ

自然ノ淨土チエソシラヌ

聖道權假ノ方便ニ

衆生ヒサシクトマリテ

諸有ニ流轉ノ身トソナル

悲願ノ一乘歸命セヨ

已上大經意

觀經意

恩德廣大釋迦如來

韋提夫人ニ勅シテソ

九首

光臺現國ノソノナカニ

安樂世界チエラハシム

頻婆沙羅王勅セシメ

宿因ソノ期チマダスシテ

仙人殺害ノムクヒニハ

七重ノムロニトチラレキ

阿闍世王ハ嗔怒シテ

我母是賊トシメシテソ

无道ニ母チ害セント

ツルキチヌキテムカヒケル

耆婆月光子ンユロニ

是旃陀羅トハチシメテ

不宜住此ト奏シテソ

闍王ノ逆心イサメケル

耆婆大臣オサヘテソ

却行而退セシメツ

闍王ツルキチヌステシメテ

韋提チミヤニ禁シケル

「禁しめしなり」

彌陀釋迦方便シテ

阿難目連富樓那韋提

達多闍王頻婆沙羅

耆婆月光行雨等

大聖ヲノノモロトモニ

凡愚底下ノツミヒトチ

逆惡モラサ又誓願ニ

方便引入セシメケリ

釋迦韋提方便シテ

淨土ノ機緣熟スレハ

雨行大臣證トシテ

闍王逆惡興セシム

定散諸機各別ノ

自力ノ三心ヒルカヘシ

如來利他ノ信心ニ

通入セント子カフヘシ

已上觀經意

彌陀經意

五首

④ 十方微塵世界ノ

念佛ノ衆生チミソナハシ

攝取シテステサレハ

阿彌陀トナツケタテマツル

恒沙塵數ノ如來ハ

萬行ノ少善キラヒツ、

名號不思議ノ信心ヲ

ヒトシクヒトヘニス、メシム

十方恒沙ノ諸佛ハ

極難信ノノリヲトキ

五濁惡世ノタメニトテ

證誠護念セシメタリ

諸佛ノ護念證誠ハ

悲願成就ノユヘナレハ

金剛心ヲエンヒトハ

彌陀ノ大恩報スヘシ

五濁惡時惡世界

濁惡邪見ノ衆生ニハ

彌陀ノ名號アタヘテソ

恒沙ノ諸佛ス、メタル

已上彌陀經意

諸經ノユ、ロニヨリテ
 彌陀和讃
 九首
 ⑤ 无明ノ大夜ヲアハレミテ
 法身ノ光輪キハモナク
 无導光佛トシメシテソ
 安養界ニ影現スル
 久遠實成阿彌陀佛

五濁ノ凡愚ヲアハレミテ
 釋迦牟尼佛トシメシテソ
 迦耶城ニハ應現スル
 百千俱胝ノ劫ヲヘテ
 百千俱胝ノシタチイタシ
 シタコト无量ノユエナシテ
 彌陀ヲホメンニナツキシ
 大聖易往トトキタマフ
 淨土ヲウタカフ衆生ヲハ
 无眼人トソナツケタル
 「眼なき人と云ふ」

无耳人トソノヘタマフ
 「耳なき人と云ふ」
 无上上ハ眞解脱
 「眞に悟りを開く」
 眞解脱ハ如來ナリ
 眞解脱ニイタリテソ
 无愛无疑トハアラハル、
 「欲の心なし、疑ふ心なしとなり」
 平等心ヲウルトキチ
 一子地トナツケタリ
 一子地ハ佛性ナリ
 安養ニイタリテサトルヘシ

⑥ 如來スナハチ涅槃ナリ
 涅槃ヲ佛性トナツケタリ
 凡地ニシテハサトレス
 安養ニイタリテ證スヘシ
 信心ヨロコフソノヒトチ
 如來トヒトシトトキタマフ
 大信心ハ佛性ナリ
 佛性スナハチ如來ナリ
 衆生有礙ノサトリニテ
 无導ノ佛智ヲウタカヘハ

南无阿彌陀佛ヲトナフレハ

炎魔法王尊敬ス

五道ノ冥官ミナトモニ

ヨルヒルツ子ニマモルナリ

南无阿彌陀佛ヲトナフレハ

陀化天ノ大魔王

釋迦牟尼佛ノミマヘニテ

マモラントコソチカヒシカ

天神地祇ハコトク

善鬼神トナツケタリ

コレヲノ善神ミナトモニ

念佛ノヒトチマモルナリ

願力不思議ノ信心ハ

大菩提心ナリケレハ

天地ニミテル惡鬼神

ミナコトクオソルナリ

南无阿彌陀佛ヲトナフレハ

觀音勢至ハモロトモニ

恒沙塵數ノ菩薩ト

カケノコトクニ身ニソヘリ
无導光佛ノヒカリニハ
无數ノ阿彌陀マシクテ
化佛ヲノコトク
眞實信心チマモルナリ
南无阿彌陀佛ヲトナフレハ
十方无量ノ諸佛ハ
百重千重圍繞シテ
ヨロコヒマモリタマフナリ
已上現世利益

首楞嚴經ニヨリテ大勢至
菩薩和讚シタテマツル八首
勢至念佛圓通シテ
五十二菩薩モロトモニ
スナハチ座ヨリタシメテ
佛足頂禮セシメツ
教主世尊ニマフサシム
往昔恒河沙劫ニ
佛世ニイテタマヘリキ
无量劫トマフシケリ

十二ノ如來 アヒツキテ
(十二ノ如來相繼ぎて)

十二劫チヘタマヘリ

最後ノ如來チナツケテソ

超日月光トマフシケル

超日月光 ヨノ身ニハ

念佛三昧チシヘシム

十方ノ如來ハ衆生チ

一子ノコトク憐念ス

子ノ母チオモフコトクニテ

衆生佛チ憶スレハ

現前當來トチカラス

如來チ拜見ウタカハス

染香人ノソノ身ニハ

香氣アルカコトクナリ

コレチスナハチナツケテソ
(これを即ち名けてぞ)

香光莊嚴トマフスナル

ワレモト因地ニアリシトキ

念佛ノ心チモチテコソ

无生忍ニハイリシカハ

イマユノ娑婆界ニシテ

念佛ノヒトチ攝取シテ

淨土ニ歸セシムルナリ

大勢至菩薩ノ

大恩フカク報スヘシ

已上大勢至菩薩

源空聖人御本地也

高僧和讚

御和讃中

高僧和讃

愚禿親鸞作

龍樹菩薩 付ニ釋文ニ

十首

○本師龍樹菩薩ハ

智度十住毘婆娑等

ツクリテオホク西チホメ

ス、メテ念佛（造りて多く西を説め）セシメタリ

南天竺ニ比丘アラン

龍樹菩薩トナツクヘシ

有无ノ邪見ヲ破スヘシト

世尊ハカ子テトキタマフ

本師龍樹菩薩ハ

大乘无上ノ法ヲトキ

歎喜地ヲ證シテソ

ヒトヘニ念佛ス、メケル

龍樹大士世ニイテ、

難行易行ノミチヲシヘ

流轉輪廻ノワレヲハ

弘誓ノフ子ニノセタマフ

本師龍樹菩薩ノ

チシヘチツタヘキカンヒト
本願ホンクワンコ、ロニカケシメテ

ツ子ニ彌陀ミダツヲ稱シヨウスヘシ
トノウ(シトナリ)
「唱ふべしとなり」

不退フダイノクヲキスミヤカニ
(不退の位速かに)

エントオモハンヒトハミチ
(獲んと思はん人は皆)

恭敬クキヤウノ心ニ執持シツチシテ
「心に執り保つと云ふ」

彌陀ミダツノ名號稱ミヤウカウシヨウスヘシ

◎生死シヤウシノ苦海クカイホトリナシ
(生死の苦海遊りなし)

ヒサシクシツメルワレラ
ヲハ (久しく沈める吾等をば)

彌陀ミダツ弘誓クワシノフ子ノミソ

ノセテカナラスワタシケル
(乗せて必ず渡しける)

智度論チドロンニノタマハク

如來ニヨライハ无上ムシヤウホウラウ法皇ホフクワウナリ

菩薩ホサチハ法臣ホフシムトシタマヒテ

尊重ソウジュウスヘキハ世尊セソウナリ

一切イツサイ菩薩ホサチノノタマハク

ワレラ因地インチニアリシトキ

无量劫ムリヤウキヤクヲヘメクリテ
(無量劫を經廻りて)

萬善マンゼン諸行シヨウギヤウヲ修シユセシカト

恩愛オンアイハナハタタチカタク
(恩愛甚だ斷ち難く)

生死シヤウシハナハタツキカタシ

念佛ニブツ三昧サムマイ行ギヤウシテソ

罪障サイシャウヲ滅メチシ度脫トダチセシ

已上イジヤウ龍樹リウジュ菩薩ホサチ

天親テンシン菩薩ホサチ付ツケテ釋文シヤクモンニ
十首シウシユ

御和讃

釋迦シヤカノ教法クワホフオホケレト

天親テンシン菩薩ホサチハ千ンユロニ

煩惱ホムナウ成就シヤウジユノワレラニハ

彌陀ミダツノ弘誓クワシヲス、メシム

安養アンヤウ淨土シヤウトノ莊嚴シヤウオンハ

唯佛ユイフツ與佛ヨフツノ知見チケンナリ

究竟クワウキヤウセルコト虚空コウクワニシテ

廣大クワウダイニシテ邊際ヘンサイナシ
(邊り際なしとなり)

本願ホンクワン力リキニマヒヌレハ

ムナシクスクルヒトソナキ
(空しく過ぐる人ぞなき)

三〇七

功徳ノ寶海ミチノテ
煩惱ノ濁水ヘタテナシ

◎如來淨華ノ聖衆ハ

正覺ノハチヨリ化生シテ
衆生ノ願樂ユトク
スミヤカニトク満足ス
天人不動ノ聖衆ハ
弘誓ノ智海ヨリ生ス
心業ノ功徳清淨ニテ

(速かに疾く満足す)

虚空ノコトク差別ナシ
天親論主ハ一心ニ

无尋光ニ歸命ス
本願力ニ乗スレハ
報土ニイタルトノヘタマフ
盡十方ノ无尋光佛
一心ニ歸命スルチコソ
天親論主ノミコトニハ
願作佛心トノヘタマヘ
願作佛ノ心ハコレ

(佛に成らんと願ふ心なり)

度衆生ノコ、ロナリ
度衆生ノ心ハコレ
利他眞實ノ信心ナリ
信心スナハチ一心ナリ
一心スナハチ金剛心
金剛心ハ菩提心
コノ心スナハチ他力ナリ
願土ニイタレハスミヤカニ
无上涅槃ヲ證シテソ
スナハチ大悲ヲチコスナリ

(願土に到れば速かに)

コレヲ廻向トナツケタリ
已上天親菩薩

◎本師曇鸞和尚ハ

曇鸞和尚 付釋文三十四首
菩提流支ノチシヘニテ
仙經ナカクヤキステ、
淨土ニフカク歸セシメキ
四論ノ講說サシチキテ

(仙經永く燒捨て)

本願他力ヲトキタマヒ
 具縛ノ凡衆ヲミチヒキテ
 涅槃ノカトニソイラシメシ
(涅槃の門にぞ入らしめし)
 世俗ノ君子幸臨シ
 勅シテ淨土ノユヘヲトフ
 十方佛國淨土ナリ
 ナニ、ヨリテカ西ニアル
 鸞師ユタヘテノタマハク
 ワカ身ハ智慧アサクシテ
 イマタ地位ニイラサレハ
不退の位に到らずとなり

念力ヒトシクヲヨハレヌ
(念力等しく及ばれず)
 一切道俗モロトモニ
 歸スヘキトコロソサラニ
 ナキ (歸すべき處ぞ更になき)
 安樂勸歸ノユ、ロサシ
 鸞師ヒトリサタメタリ
 魏ノ主勅シテ并州ノ
 大巖寺ニソオハシケル
(大巖寺にぞ在しける)
 ヤウヤクオハリニソミ
 テハ (漸く終りに臨みては)

汾州ニウツリタマヒニキ
(汾州に移り玉ひにき)

⑤ 魏ノ天子ハタフトミテ
 神鸞トユソ號セシカ
「名づけ奉る」
 オハセシトコロソノ名
 ナハ (在せし處の
其名をば)
 鸞公巖トソナツケタル
 淨業サカリニス、メツ、
 玄忠寺ニソオハシケル
 魏ノ興和四年ニ

御和讃

三一

遙山寺ニコソウツリシカ
(六十有七)
 六十有七トキイタリ
(六十有七)
 淨土ノ往生トケタマフ
 ソノトキ靈瑞不思議ニテ
 一切道俗歸敬シキ
 君子ヒトヘニオモクシテ
(君子偏へに重くして)
 勅宣クダシテタチマチニ
(勅宣降して忽ちに)
 汾州汾西秦陵ノ
「國の名なり、郡の名なり、郷の名なり」
 勝地ニ靈廟タテタマフ
「勝れたる處、靈鸞の御墓なり」

天親菩薩ノミコトナモ

鸞師トキノヘタマハスハ
(鸞師説き演べ玉はずは)

他力廣大威徳ノ

心行イカテカサトラマシ
(心行いかてか悟らまし)

本願圓頓一乗ハ

逆惡攝スト信知シテ

煩惱菩提體无二ト

スミヤカニトクサトラシム
(速かに疾く悟らしむ)

⑥ イツ、ノ不思議ヲトクナカニ

佛法不思議ニシクソナキ

佛法不思議トイフコトハ

彌陀ノ弘誓ニナツケタリ

彌陀ノ廻向成就シテ

往相還相フタツナリ

ユレラノ廻向ニヨリテユソ
(心行共に得しむなれ)

心行トモニエシムナレ

往相ノ廻向トトクユトハ

彌陀ノ方便トキイタリ
(彌陀の方便時到り)

悲願ノ信行エシムレハ

生死スナハチ涅槃ナリ

還相ノ廻向トトクユトハ

利他教化ノ果ヲエシメ

スナハチ諸有ニ廻入シテ

普賢ノ徳ヲ修スルナリ

論主ノ一心トケルナリ

曇鸞大師ノミコトニハ

煩惱成就ノワレラカ

他力ノ信トノヘタマフ

盡十方ノ无導光ハ

无明ノヤミヲテラシツ、

一念觀喜スルヒトナリ

カナラス滅度ニイタラシム

⑦ 无導光ノ利益ヨリ

威徳廣大ノ信ヲエテ

カナラス煩惱ノユホリトケ
(必ず煩惱の水解け)

スナハチ菩提ノミツトナル

罪鄣功德ノ體トナル

ユホリトミツノユトクニテ
(水と水の如くにて)

コホリオホキニミツオホシ

(水多きに水多し)

サハリオホキニ徳オホシ

「悪業多ければ功德の多きなり」

名號不思議ノ海水ハ

逆謗ノ屍骸モト、マラス

「屍に譬へたり」

衆惡ノ萬川歸シタレハ

「萬の惡を萬の川に喩へたり」

功德ノウシホニ一味ナリ

「一ツ味ひとなるなり」

盡十方無導光ノ

大悲大願ノ海水ニ

煩惱ノ衆流歸シヌレハ

智意ノウシホニ一味ナリ

安樂佛國ニ生スルハ

畢竟成佛ノ道路ニテ

「廣き路、狭き路」

無上ノ方便ナリケレハ

諸佛淨土チヌ、メケリ

諸佛三業莊嚴シテ

畢竟平等ナルコトハ

衆生虚誑ノ身口意ヲ

治セシカタメトノヘタマフ

(治せんが爲めと演へ玉ふ)

⑧ 安樂佛土ニイタルニハ

無上寶珠ノ名號ト

眞實信心ヒトツニテ

無別道故トトキタマフ

如來清淨本願ノ

无生ノ生ナリケレハ

本則三三ノ品ナレト

「もとは九品の衆生の報土に生れぬれば一人も異なることなしとなり」

一二モカハルコトソナキ

无導光如來ノ名號ト

カノ光明智相トハ

无明長夜ノ闇ヲ破シ

衆生ノ志願チミテタマフ

「志し願ふことを」

不如實修行トイヘルコト

鸞師釋シテノタマハク

一者信心アツカラス

若存若亡スルユハニ

「或時はさと思ふ、或時は叶ふまじと思ふなり」

二者信心一ナラス

決定ナキユヘナレハ
三者信心相續セス
餘念間故トノヘタマフ

三信展轉相成ス
行者コ、ロヲト、ムヘシ
信心アツカラサルユヘニ

決定ノ信ナカリケリ
念相續セサルナリ

決定ノ信ナキユヘニ
念相續セサルナリ

⑨ 決定ノ信ナキユヘニ
念相續セサルナリ

念相續セサルユヘ
決定ノ信チエサルナリ

決定ノ信チエサルユヘ

信心不淳トノヘタマフ
如實修行相應ハ

信心ヒトツニサタメタリ
萬行諸善ノ小路ヨリ

本願一實ノ大道ニ
歸入シヌレハ涅槃ノ

決定ノ信チエサルユヘ
信心不淳トノヘタマフ

サトリハスナハチヒラクナ
リ (悟りは即ち開くなり)

本師曇鸞大師ヲハ

梁ノ天子蕭王ハ

オハセシカタニツ子ニムキ
鸞菩薩トソ禮シケル

已上曇鸞和尚

道綽禪師 付ニ釋文ニ

七首

御和讃

本師道綽禪師ハ

聖道萬行サシチキテ

唯有淨土一門ヲ

通入スヘキミチトトク
本師道綽大師ハ

涅槃ノ廣業サシチキテ

本願他力ヲタノミツ、

五濁ノ群生ス、メシム

⑩ 末法五濁ノ衆生ハ

聖道ノ修行セシムトモ

ヒトリモ證チエシトユソ
(獨りも證を得じとこそ)

教主世尊ハトキタマヘ

鸞師ノナシヘチウケツタヘ
(鸞師の教を受け傳へ)

綽和尙ハモロトモニ

在此起心立行ハ

此是自力トサタメタリ
「これは是れ自力なりと云ふ」

濁世ノ起惡造罪ハ

「惡を起し罪を造ることの多きことを云ふ」

暴風駛雨ニコトナラス

諸佛コレヲチアハレミテ

ス、メテ淨土ニ歸セシメリ

一形惡ヲツクレトモ

專精ニユ、ロチカケシメテ
(專精に心を懸けしめて)

ツ子ニ念佛セシムレハ

諸鄣自然ニソコリヌ
(諸障自然除こりぬ)

縱令一生造惡ノ

衆生引接ノタメニトテ

世世ニ善導イテタマヒ
(世々に善導出て玉ひ)

法照少康トシメシツ、

功德藏チヒラキテソ

諸佛ノ本意トケタマフ

彌陀ノ名願ニヨラサレハ

百千萬劫チスクレトモ

イツ、ノサハリハチレチハ
(五つの障り離れねば)

女身チイカテカ轉スヘキ

釋迦ハ要門ヒラキツ、

定散諸機チユシテヘテ

⑤ 大心海ヨリ化シテユソ

善導和尙トオハシケレ

末代濁世ノタメニトテ

十方諸佛ニ證チユフ

善導大師 付ニ釋文ニ 二十首

稱我名字ト願シツ、
「我名を唱へよと願し玉へり」

若不生者トチカヒタリ
「若し生れずば佛に成らじと誓ひ玉へるなり」

已上道綽大師

正雜二行方便シ

ヒトヘニ專修ヲス、メシム

助正ナラヘテ修スルヲハ

(助正並べて修するをば)

スナハチ雜修トナツケタリ

一心ヲエザルヒトナレハ

(一心を獲ざる人なれば)

佛恩報スルコ、ロナシ

佛號ム子ト修スレトモ

現世ナイノル行者ヲハ

コレモ雜修トナツケテソ

千中無一トキラハル、

⑤ コ、ロハヒトツニアラ子トモ

(心は一つにあらねども)

雜行雜修コレニタリ

淨土ノ行ニアラヌヲハ

ヒトヘニ雜行トナツケタリ

善導大師證チユヒ

定散二心ヲヒルカヘシ

貪瞋二河ノ譬喩ヲトキ

弘願ノ信心守護セシム

「譬喩なり」

經道滅盡トキイタリ

如來出世ノ本意ナル

弘願眞宗ニアヒヌレハ

凡夫念シテサトルナリ

佛法方ノ不思議ニハ

諸邪業撃サハラ子ハ

彌陀ノ本弘誓願ヲ

増上縁トナツケタリ

願力成就ノ報土ニハ

自力ノ心行イタラ子ハ

大小聖人ミナナカラ

如來ノ弘誓ニ乘スナリ

煩惱貝足ト信知シテ

本願力ニ乗スレハ

スナハチ穢身ステハテ、

法性常樂證セシム

⑥ 釋迦彌陀ハ慈悲ノ父母

「釋迦は父、彌陀は母なりと譬へ玉へり」

種種ニ善功方便シ

ワレラカ无上ノ信心ヲ

發起セシメタマヒケリ

眞心徹到スルヒトハ

金剛心ナリケレハ

「發起し玉ふなり」

三品ノ懺悔スルヒト、
 ヒトシト宗師ハノタマヘリ
 五濁惡世ノワレテユソ
 金剛ノ信心ハカリニテ
 ナカク生死チステハテ、
 自然ノ淨土ニイタルナレ
 金剛堅固ノ信心ノ
 サタマルトキチマチエテソ
 彌陀ノ心光攝護シテ
 ナカク生死チヘタテケル

(定まる時を待ち得てぞ)

眞實信心エサルチハ
 一心カケヌトチシヘタリ
(一心缺けぬと教へたり)
 一心カケタルヒトハミナ
 三信具セストオモフヘシ
「本願の信心を云ふなり」
 利他ノ信樂ウルヒトハ
 願ニ相應スルユヘニ
 教ト佛語ニシタカヘハ
 外ノ雜縁サラニナシ
 眞宗念佛キ、エツ、

一念无疑ナルチコソ
 希有寔勝人トホメ
 正念チウトハサタメタレ
 本願相應セサルユヘ
 雜縁キタリミタルナリ
「雜縁來り亂るなり」
 信心亂失スルチコソ
 正念ウストハノヘタマヘ
 信ハ願ヨリ生スレハ
 念佛成佛自然ナリ
 自然ハスナハチ報土ナリ

證大涅槃ウタカハス
 五濁増ノトキイタリ
 疑謗ノトモカラオホクシテ
「彌陀の誓ひを疑ふ者、謗る者なり」
(疑謗の根多くして)
 道俗トモニアヒキラヒ
「道俗共に相嫌ひ」
 修スルチミテハアタチナス
(修するを見ては仇かなす)
 本願毀滅ノトモカラハ
「謗り滅ぼすなり」
 生盲闍提トナツケタリ
「生れてより盲なる者、闍提は佛になり難し」
 大地微塵切チヘテ
 ナカク三塗ニシツムナリ

西路ヲ指授セシカトモ

自障障他セシホトニ

曠劫已來モイタツラニ

ムナシクコソハスキニケレ

弘誓ノチカラチカフラスハ

イツレノトキニカ娑婆チイ

テン

佛恩フカクオモヒツ、

ツ子ニ彌陀ヲ念スヘシ

娑婆永劫ノ苦ナステ、

淨土无爲ヲ期スルコト

本師釋迦ノチカラナリ

長時ニ慈恩ヲ報スヘシ

已上善導大師

源信大師 付ニ釋文ニ 十首

源信和尚ノクダマハク

ワレユレ故佛トアテハレテ

化縁ステニツキヌレハ

本土ニカヘルトシメシケリ

本師源信チンユロニ

一代佛敎ノソノチカニ

念佛一門ヒラキテソ

濁世末代チシヘケル

靈山聽衆トオハシケル

源信僧都ノチシヘニハ

報化二土ヲチシヘテソ

專雜ノ得失サダメザル

本師源信和尚ハ

懷感禪師ノ釋ニヨリ

處胎經チヒラキテソ

懈慢界チハアラハセル

專修ノヒトチホムルニハ

千无一失トチシヘタリ

雜修ノヒトチキラフニハ

萬不一生トノヘタマフ

「萬に一人も報土に生れずとなり」

報ノ淨土ノ往生ハ

オホカラストソアラハセル

「多からずとぞ顯はせる」

化土ニムマル、衆生ヲハ

スクナカラストナシヘタリ

「少なからずと教へたり」

男女貴賤コトク

彌陀ノ名號稱スルニ

行住坐臥モエラハレス

「行く、住る、坐る、臥すなり」

時處諸縁モサハリナシ

「時、處、萬の事なり」

煩惱ニマナユサヘラレテ

攝取ノ光明ミサレトモ

「大悲もの愛きことなくて」

大悲モノウキコトナクテ

ツネニワカ身ヲテラスナリ

彌陀ノ報土ヲ子カフヒト

外儀ノスカタハコトナリト

本願名號信受シテ

寤寐ニワスル、コトナカレ

「寢ても寤てもと云ふことなり」

極惡深重ノ衆生ハ

他ノ方便サヲニナシ

ヒトヘニ彌陀ヲ稱シテソ

淨土ニムマルトノヘタマフ

已上源信大師

源空聖人 付ニ釋文ニ 二十首

本師源空世ニイテ、

弘願ノ一乘ヒロメツ、

日本一州コトク

淨土ノ機縁アラハレヌ

智慧光ノチカラヨリ

本師源空アラハレテ

淨土眞宗ヲヒラキツ、

選擇本願ノヘタマフ

善導源信ス、ムトモ

本師源空ヒロメスハ

片州濁世ノトモカラハ

イカテカ眞宗ヲサトラマシ

曠劫多生ノアヒタニモ

出離ノ強縁シラサリキ

本師源空イマサスハ

コノタヒムナシクスキナマ

シ (此度空しく過ぎなまし)

源空三五ノヨハヒニテ

无常ノユトハリサトリツ、

厭離ノ素懐チアラハシテ

菩提ノミチニソイラシメシ
(菩提の道にぞ入らしめて)

源空智行ノ至徳ニハ

聖道諸宗ノ師主モ
(聖人の御師なり)

ミナモロトモニ歸セシメテ

一心金剛ノ戒師トス
(諸宗の御師の聖人の御弟子に皆なり玉ふ)

源空存在セシトキニ

金色ノ光明ハナタシム

禪定博陸マノアタリ

拜見セシメタマヒケリ

本師源空ノ本地ヲハ

世俗ノヒトノアヒツタヘ
(世俗の人々相傳へ)

綽和尚ト稱セシメ

アルヒハ善導トシメシケリ

源空勢至ト示現シ

アルヒハ彌陀ト顯現ス
(現はれ玉ふ)

上皇群臣尊敬シ

京夷庶民欽仰ス
(國王なり、大臣公卿なり)

承久ノ太上法皇ハ
(京夷、萬の民敬ひ仰ぎ上つる)

本師源空ヲ歸敬シキ

釋門儒林ミナトモニ
(僧なり、俗學匠なり)

ヒトシク眞宗ニ悟入セリ
(悟り入るなり)

諸佛方便トキイタリ

源空ヒトリトシメシツ、

无上ノ信心ヲシヘテソ

涅槃ノカトチハヒラキケル
(涅槃の門をば開きける)

眞ノ智識ニアフコトハ

カタキカナカニナチカタシ
(難きが中に猶かたし)

御和讃下

康元二歳丁巳二月九日夜
寅時夢告云

彌陀ノ本願信スヘシ

本願信スルヒトハミナ

攝取不捨ノ利益ニテ

无上覺ヲハサトルナリ

正像未淨土和讃

愚禿善信集

釋迦如來カクレマシクテ

二千餘年ニナリタマフ

正像ノ二時ハチハリニキ

如來ノ遺弟悲泣セヨ

末法五濁ノ有情ノ

行證カナハヌトキナレハ

釋迦ノ遺法コトク

龍宮ニイタリタマヒニキ

正像末ノ三時ニハ

彌陀ノ本願ヒロマレリ

像季末法ノユノ世ニハ

諸善龍宮ニイリタマフ

大集經ニトキタマフ

コノ世ハ第五ノ五百年

鬪諍堅固ナルユヘニ

白法隱滞シタマヘリ

數万歳ノ有情モ

果報ヤウヤクオトロヘテ

二萬歳ニイタリテハ

五濁惡世ノ名ヲニタリ

劫濁ノトキウツルニハ

有情ヤウヤク身小ナリ

五濁惡邪マサルユヘ

毒蛇惡龍ノコトクナリ

◎无明煩惱シケクシテ

塵數ノコトク遍滿ス

愛憎違順スルコトハ

高峯岳山ニコトナラス

有情ノ邪見熾盛ニテ

叢林棘刺ノコトクナリ

念佛ノ信者ヲ疑謗シテ

破壞瞋毒サカリナリ

命濁中天刹那ニテ

依正二報滅亡シ

背正歸邪マサルユヘ

横ニアタチソチコシケル

末法第五ノ五百年

ユノ世ノ一切有情ノ

如來ノ悲願ヲ信セスハ

出離ソノ期ハナカルヘシ

九十五種世ヲケカス

唯佛一道キヨクマス

菩提ニ出到シテノミソ

火宅ノ利益ハ自然ナル

五濁ノ時機イタリテハ

道俗トモニアラソヒテ

念佛信スルヒトナミテ

疑謗破滅サカリナリ
「疑ふ、謗り、破る」

③ 菩提ナウマシキヒトハミナ
(菩提を得まじき人は皆)

專修念佛ニアタナス

頓教毀滅ノシルシニハ

生死ノ大海キハモナシ

正法ノ時機トオモヘトモ

底下ノ凡愚トナレル身ハ

「煩惱悪の人、凡夫を底下と云ふなり」

清淨眞實ノコ、ロナシ

發菩提心イカ、セン

自力聖道ノ菩提心

コ、ロモコトハモヲヨハレ

ス(意も言葉も及ばれず)

常没流轉ノ凡愚ハ

イカテカ發起セシムヘキ

三恒河沙ノ諸佛ノ

出世ノミモトニアリシトキ

大菩提心ヲコセトモ
(出世の御許にありし時)

自力カナハテ流轉セリ

像末五濁ノ世トナリテ

釋迦ノ遺教カクレシム

彌陀ノ悲願ヒロマリテ

念佛往生サカリナリ

超世无上ニ攝取シ

選擇五劫思惟シテ

光明壽命ノ誓願ヲ

大悲ノ本トシタマヘリ

スナハチ願作佛心ヲ

度衆生心トナツケタリ

度衆生心トイフコトハ

彌陀智願ノ廻向ナリ

廻向ノ信樂ウルヒトハ

大般涅槃ヲサトルナリ

如來ノ廻向ニ歸入シテ

願作佛心ヲウルヒトハ

自力ノ廻向チステハテ、

利益有情ハキハモナシ

④ 淨土ノ大菩提心ハ
願作佛心チス、メシム

彌陀ノ智願海水ニ「彌陀の本願を海に喻へ申すなり」

他力ノ信水イリヌレハ

眞實報土ノナラヒニテ

煩惱菩提一味ナリ「煩惱と功德と一つになるなり」

如來二種ノ迴向ヲ

フカク信スルヒトハミナ

等正覺ニイタルユヘ

憶念ノ心ハタエヌナリ

彌陀智願ノ迴向ソ

信樂マコトニウルヒトハ

攝取不捨ノ利益ユヘ

⑤ 五十六億七千萬

彌勒菩薩ハトシテヘン

マコトノ信心ウルヒトハ

コノタヒサトリチヒラクヘ

シ（この度悟りを開くべし）

念佛往生ノ願ニヨリ

等正覺ニイタルヒト

スナハチ彌勒ニオナシクテ（即ち彌勒に同じくて）

大般涅槃ヲサトルヘシ

眞實信心ウルユヘニ

スナハチ定聚ニイリヌレハ

補處ノ彌勒ニオナシクテ

无上覺ヲサトルナリ

像法ノトキノ智人モ

自力ノ諸教ヲサシチキテ

時機相應ノ法ナレハ

念佛門ニソイリタマフ

彌陀ノ尊號トナヘツ、

信樂マコトニウルヒトハ

憶念ノ心ツチニシテ

佛恩報スルオモヒアリ

⑥ 五濁惡世ノ有情ノ

選擇本願信スレハ

不可稱不可說不可思議ノ

功德ハ行者ノ身ニミテリ

⑥ 无導光佛ノミコトニハ

未來ノ有情利セントテ
 大勢至菩薩ニ
 智慧ノ念佛サツテシム
 濁世ノ有情チアハレミテ
 勢至念佛ス、メシム
 信心ノヒトヲ攝取シテ
 淨土ニ歸入セシメケリ
 釋迦彌陀ノ慈悲ヨリソ
 願作佛心ハエシメタル
 信心ノ智慧ニイリテコソ

佛恩報スル身トハナレ
 智慧ノ念佛ウルコトハ
 法藏願力ノチセルナリ
 信心ノ智慧ナカリセハ
 イカテカ涅槃チサトラマシ
 無明長夜ノ燈炬ヨリ
 「常の燈火を彌陀の本願に喩へ申すなり、常の燈火を燈と云ふ互きなる燈火を炬といふ」
 智眼クラシトカナシムナ
 生死大海ノ船筏ナリ
 罪障チモシトナケカサレ

願力无窮ニマシマセハ
 罪業深重モオモカラス
 佛智无邊ニマシマセハ
 散亂放逸モステラレス
 「散り亂る、恣まゝの心といふなり」
 ⑦ 如來ノ作願チタツヌレハ
 苦惱ノ有情チステスシテ
 迴向チ首トシタマヒテ
 大悲心チハ成就セリ
 眞實信心ノ稱名ハ

彌陀迴向ノ法ナレハ
 不迴向トナツケテソ
 自力ノ稱念キラハル、
 彌陀智願ノ廣海ニ
 凡夫善惡ノ心水モ
 「凡夫の善の心、惡の心を水に譬へたるなり」
 歸入シヌレハスナハチニ
 「歸入しぬれば即ちに」
 大悲心トソ轉スナル
 「惡の心善となるを轉するなり云ふなり」
 造惡コノムワカ弟子ノ
 邪見放逸サカリニテ

末世ニワカ法破スヘシト

蓮華面經ニトキタマフ

念佛誹謗ノ有情ハ

阿鼻地獄ニ墮在シテ

八萬劫中大苦惱

ヒマナクウクトソトキタマ

フ(間なく受くとぞ説き玉ふ)

眞實報土ノ正因ヲ

二尊ノミコトニタマハリテ

正定聚ニ住スレハ

カナラス滅度チサトルナリ

十方無量ノ諸佛ノ

證誠護念ノミコトニテ

自力ノ大菩提心ノ

カナハヌホトハシリヌヘシ

(叶はぬ程は知りぬべし)

⑧ 眞實信心ウルコトハ

末法濁世ニマレナリト

恒沙ノ諸佛ノ證誠ニ

エカタキホトヲアラハセリ

(獲難き程を顯はせり)

往相還相ノ迴向ニ

マウアハヌ身トナリニセハ

(能はぬ身となりせば)

流轉輪迴モキハモナシ

苦海ノ沉淪イカ、セン

佛智不思議ヲ信スレハ

正定聚ニコソ住シケレ

化生ノヒトハ智慧スクレ

无上覺ヲソサトリケル

不思議ノ佛智ヲ信スルヲ

報土ノ因トシタマヘリ

信心ノ正因ウルコトハ

カタキカナカニナチカタシ

(難きが中に猶難し)

无始流轉ノ苦チステ、

无上涅槃ヲ期スルコト

如來二種ノ迴向ノ

恩徳マコトニ謝シカタシ

報土ノ信者ハオホカラス

化土ノ行者ハカスオホシ

自力ノ菩提カナナハ子ハ

久遠劫ヨリ流轉セリ

⑨ 南无阿彌陀佛ノ廻向ノ

恩徳廣大不思議ニテ

往相廻向ノ利益ニハ

還相廻向ニ廻入セリ

往相廻向ノ大慈ヨリ

還相廻向ノ大悲チウ

如來ノ廻向ナカリセハ

浄土ノ菩提ハイカ、セン

彌陀觀音大勢至

大願ノフチニ乗シテソ

生死ノウミニウカミツ、

有情チヨハフテノセタマフ

彌陀大悲ノ誓願チ

フカク信センヒトハミナ

チテモサメテモヘタテナク

南无阿彌陀佛ヲトナフヘシ

聖道門ノヒトハミナ

自力ノ心チムチトシテ

他力不思議ニイリヌレハ

義ナキチ義トスト信知セリ

釋迦ノ教法マシマセト

修スヘキ有情ノナキユヘニ

サトリウルモノ末法ニ

一人モアラストトキタマフ

⑩ 三朝浄土ノ大師等

哀愍攝受シタマヒテ

眞實信心ス、メシメ

定聚ノクラキニイレシメヨ

他力ノ信心ウルヒトハ

ウヤマヒオホキニヨロコヘ

ハ(敬ひ大きに喜べば)

スナハチワカ親友ソト

教主世尊ハホメタマフ

如來大悲ノ恩徳ハ

身チ粉ニシテモ報スヘシ

師主知識ノ恩徳モ

ホチチクタクキテモ謝スヘシ

已上正像末法和讚 五十八首

不了佛智ノシルシニハ

如來ノ諸智ヲ疑惑シテ

罪福信シ善本ヲ

タノメハ邊地ニトマルナリ

佛智ノ不思議ヲウタカヒテ

自力ノ稱念コノムユヘ

邊地懈慢ニト、マリテ

佛恩報スルコ、ロナシ

罪福信スル行者ハ

佛智ノ不思議ヲウタカヒテ

疑城胎宮ニト、マレハ
三寶ニハナレタテマツル

⑤佛智疑惑ノツミニヨリ

懈慢邊地ニトマルナリ

疑惑ノツミノフカキユヘ

年歲劫數ヲフルトトク
(年歲劫數を經ると説く)

轉輪皇ノ王子ノ

皇ニツミチウルユヘニ

金鑠ヲモチテツチキツ、

牢獄ニイルカユトクナリ

自力稱名ノヒトハミナ

如來ノ本願信セテハ

ウタカフツミノフカキユヘ
(疑ふ罪の深きゆへ)

七寶ノ獄ニソイマシムル

信心ノヒトニオトラシト
(信心の人に劣らじと)

疑心自力ノ行者モ

如來大悲ノ恩ヲシリ

稱名念佛ハケムヘシ

自力諸善ノヒトハミナ

佛智ノ不思議ヲウタカヘハ

自業自得ノ道理ニテ

七寶ノ獄ニソイリニケル

佛智不思議ヲウタカヒテ

善本徳本タノムヒト

邊地懈慢ニムマルレハ

大慈大悲ハエサリケリ
(大慈大悲は獲ざりけり)

⑥本願疑惑ノ行者ニハ

含華未出シヒトモアリ

或生邊地トキヲヒツ、
「或ひは邊地に生れ」
 或墮宮胎トステラル、
「或いは宮胎に墮つ」
 如來ノ諸智ヲ疑惑シテ
 信セスナカラナチモマダ
（信ぜずながら猶も亦）
 罪福フカク信セシメ
 善本修習スクレタリ
 佛智ヲ疑惑スルユエニ
 胎生ノモノハ智慧モナシ
 胎宮ニカナラスママル、チ
（胎宮に必ず生るゝを）
 牢獄ニイルトタトヘタリ

七寶ノ宮殿ニムマレテハ
（五百歳まで出でずして）
 五百歳ノトシチヘテ
 三寶ヲ見聞セサルユヘ
 有情利益ハサラニナシ
 邊地七寶ノ宮殿ニ
 五百歳マテイテスシテ
（五百歳まで出でずして）
 ミツカラ過答チナサシメテ
 モロノノ厄チウクルナリ
「諸の危きなり」
 罪福フカク信シツ、
 善本修習スルヒトハ

疑心ノ善人ナルユヘニ
 方便化土ニトマルナリ
 彌陀ノ本願信セチハ
 疑惑ヲ帶シテムマレツ、
 ハナハスナハチヒラケチハ
（華は即ち開ければ）
 胎ニ處スルニタトヘタリ
 トキニ慈氏菩薩ノ
 世尊ニマフシタマヒケリ
 何因何縁イカナレハ

胎生化生トナツケタル
 如來慈氏ニノタマハク
 疑惑ノ心チモチナカラ
 善本修スルチタノミニテ
 胎生邊地ニトマレリ
 佛智疑惑ノツミユヘニ
 五百歳マテ牢獄ニ
 カタクイマシメオハシマス
（堅く誠め在します）
 ヨレチ胎生トトキタマフ
 佛智不思議チウタカヒテ

罪福信スル有情ハ

宮殿ニカナラスムマルレハ

胎生ノモノトトキタマフ

自力ノ心ヲム子トシテ

不思議ノ佛智ヲタノマ子ハ

胎宮ニムマレテ五百歳

三寶ノ慈悲ニハナレタリ

佛智ノ不思議ヲ疑惑シテ

罪福信シ善本ヲ

修シテ浄土ヲ子カフナハ

胎生トイフトトキタマフ

佛智ウタカフツミフカシ

コノ心オモヒシルナラハ

クユルコ、ロナム子トシテ

佛智ノ不思議ヲタノムヘシ

已上二十三首佛不思議ノ

彌陀ノ御チカヒチウタカ

フツミトカナシラセント

アラハセルナリ

(佛不思議の彌陀の御誓ひを疑ふ罪咎を知らせんと著はせるなり)

愚禿善信作

皇太子聖德奉讚

佛智不思議ノ誓願ヲ

聖德皇ノメクミニテ

正定聚ニ歸入シテ

補處ノ彌勒ノコトクナリ

救世觀音大菩薩

聖德皇ト示現シテ

多々ノコトクステスシテ

阿摩ノコトクニソヒタマフ

无始ヨリコノカタコノ世マテ

聖德皇ノアハレミニ

多々ノコトクソヒタマヒ

阿摩ノコトクニオハシマス

聖德皇ノアハレミテ

佛智不思議ノ誓願ニ

ス、メイレシメタマヒテソ

住正定聚ノ身トナレル

他力ノ信ヲエンヒトハ

佛フチ恩報ホウセンタメニトテ

如來ニホ二種ライニノ迴向エカウチ

十方シツニヒトシクヒロムヘシ

大慈救世聖德皇

父チノコトクニオハシマス

大悲救世觀世音

母ハハノコトクニオハシマス

久遠劫ヨリユノ世マテ

マハレミマシマスシルシニ

ハ(愚みまします證には)

佛智フチ不思議フシギニツケシメテ

善惡ゼン淨穢ジヤウモナカリケリ

和國ワノ教主ケウ聖德皇

廣大恩德謝シカタシ

一心ヒツニ歸命キミシタテマツリ

奉讚ホウ不退タイナラシメヨ

上宮皇子方便シ

和國ワノ有情ウチアハレミテ

如來ニホノ悲願ヒチ弘宣コウセリ

慶喜奉讚キヤウセシムヘシ

多生曠劫タユノ世マテ

アハレミカフレルコノ身ナ

リ(愚み蒙れる此身なり)

一心ヒツ歸命キミタエスシテ

奉讚ホウヒマナクコノムヘシ

聖德皇シヤウノオアハレミニ

護持ゴ養育ヤウタエスシテ

如來ニホ二種ライニノ迴向エカウニ

ス、メイレシメオハシマス

已上聖德奉讚 十一首

愚禿悲歎述懷

淨土眞宗ニ歸スレトモ

眞實シンノ心シンハアリカタシ

虛假コ不實フノワカ身ミニテ

清淨シヤウノ心シンモサラニナシ

外儀ケノスカタハヒトコトニ

賢善ケン精進シヤウ現ケンセシム

貪瞋コン邪偽シヤクオホキユヘ

奸詐カンモ、ハシ身ミニミテリ

惡性アクサラニヤメカタシ

(奸詐百端身に満てり)

ニ、口ハ蛇蝎ノコトクナリ
 修善モ雜毒ナルユヘニ
 虚假ノ行トソナツケタル
 无慚无愧ノユノ身ニテ
 マユトノユ、口ハナケレト
 モ(誠の心はなけれども)
 彌陀ノ迴向ノ御名ナレハ
 功德ハ十方ニミチタマフ
 小慈小悲モナキ身ニテ
 有情利益ハオモフマシ

如來ノ願船イマサスハ
 苦海チイカテカワタルヘキ
 蛇蝎奸詐ノユ、口ニテ
 自力修善ハカナフマシ
 如來ノ迴向チタノマテハ
 无慚无愧ニテバテソセン
(無慚無愧にて果てぞせん)
 五濁増ノシルシニハ
 ヨノ世ノ道俗コトク
 外儀ハ佛教ノスカタニテ
 内心外道チ歸敬セリ

カナシキカナヤ道俗ノ
 良時吉日エラハシメ
 天神地祇チアカメツ、
 卜占祭祀ツトメトス
 僧ノ法師ノソノ御名ハ
 タフトキコト、キ、シカト
(尊きこと、聞しかど)
 提婆五邪ノ法ニニテ
 イヤシキモノニナツケタリ
 外道梵士尼乾志ニ
 コ、口ハカハテヌモノトシ

テ(心はかはらぬ者として)
 如來ノ法衣チツ子ニキテ
 一切鬼神チアカムメリ
 カナシキカナヤコノコロノ
(悲きかなや此頃の)
 和國ノ道俗ミナトモニ
 佛教ノ威儀チモト、シテ
 天地ノ鬼神チ尊敬ス
 五濁邪惡ノシルシニハ
 僧ノ法師トイフ御名チ
 奴婢僕使ニナツケテソ

イヤシキモノトサタメタル
(賤しき者と定めたる)

无戒名字ノ比丘ナレト

末法濁世ノ世トナリテ

舍利弗目連ニヒトシクテ

供養恭敬ナス、メシム

罪業モトヨリカタチナシ

妄想顛倒ノナセルナリ

心性モトヨリキヨケレト

ユノ世ハマコトノヒトソナ

キ(此世は眞の人ぞなき)

末法惡世ノカナシミハ

南都北嶺ノ佛法者ノ

興カク僧達力者法師

高位ヲモテナス名トシタリ

佛法アナツルシルシニハ

比丘比丘尼ヲ奴婢トシテ

法師僧徒ノタフトサモ

僕從モノ、名トシタリ

已上十六首コレハ愚禿カ

カナシミナケキニシテ述

懷トシタリコノ世ノ本寺

本山ノイミシキ僧トマウ

スモ法師トマフスモウキ

コトナリ(是れは愚禿が悲み歎きに
て述懐としたり、此世の

本寺本山のいみじき僧と申す
も法師と申すも憂きことなり)

釋親鸞書之

善光寺ノ如來ノ

ワレヲチアハレミマシマ

シテ(我等を慰みまして)

ナニハノウラニキタリマス

御名ヲモシラヌ守屋ニテ

ソノトキホトナリケトソマフ

シケル(此時ほとをりけとぞ申しける)

疫癘アルヒハユノユヘト

守屋カタクヒハミナトモニ

ホトナリケトソマフシケル

ヤスクス、メンタメニトテ

ホトケト守屋カマフスユヘ

トキノ外道ミナトモニ

如來ニヨライヲホトケトサタメタリ

コノ世ヨノ佛法フチホフノヒトハミナ

守屋モリヤカコトハチモト、シテ

ホトケトマフスヲタノミニ

テ(ほとけを申すを頼みにて)

僧ソウノ法師ホウシハイヤシメリ

弓削ユキケノ守屋モリヤノ大連オホムラン

邪見ジャケンキハマリナキユヘニ

ヨロツノモノヲス、メシト

(萬のものを勧めんと)

ヤスクホトケトマフシケリ

(易くほとけと申しけり)

親鸞シンラン八十八歳御筆

獲キヤクノ字ジハ因位インキノトキウルヲ獲

トイフ得トクノ字ジハ果位クワキノトキニ

イタリテウルコトヲ得トクトイフ

ナリ名ミヤウノ字ジハ因位インキノトキノナ

チ名ミヤウトイフ號カウノ字ジハ果位クワキノト

キノナチ號カウトイフ自然シヤントイフ

ハ自ジハチノツカラトイフ行者キヤウシヤ

ノハカラヒニアラスシカラシ

ムルトイフコトハナリ然シヤトイ

自然シヤントイフハモトヨリシカラ

シムルトイフコトハナリ彌陀ミダ

佛ブツノ御オンチカヒノモトヨリ行者キヤウシヤ

ノハカラヒニアラスシテ南无ナンム

阿彌陀佛アマイダブツトタノマセタマヒテ

ムカヘントハカラハセタマヒ

タルニヨリテ行者キヤウシヤノヨカラシ

トモアシカラントモオモハヌ

チ自然シヤントハマフスソトキ、テ

サフラフチカヒノヤウハ无ム上シヤウ

フハシカラシムトイフコトハ

行者キヤウシヤノハカラヒニアラス如來ニヨライ

ノチカヒニテアルユヘニ法爾ホウニ

トイフハ如來ニヨライノ御オンチカヒナル

カユヘニシカラシムルヲ法爾ホウニ

トイフコノ法爾ホウニハ御オンチカヒナ

リケルユヘニスヘテ行者キヤウシヤノハ

カラヒナキチモチユノユヘ

ニ他方タリキニハ義ギナキチ義ギトスト

シルヘキナリ

佛ブツニナラシメントチカヒタマ
 ヘルナリムシヤロフチ无上佛ムシヤロフチトマフスハカ
 タチモナクマシマスカタチモ
 マシマサヌユヘニ自然シチントハマ
 フスナリカタチマシマストシ
 メストキハムシヤウチハシ无上涅槃ムシヤウチハシトハマフ
 サスカタチモマシマサヌヤウ
 ナシラセントテハシメニ彌陀ミダ
 佛ブツトソキ、ナラヒテサフアラフ
 彌陀佛ミダブツハ自然シチンノヤウナシラセ

ンレウナリコノ道理ドウリチユ、ロ
 エツルノチニハコノ自然シチンノコ
 トハツ子ニサタスヘキニハア
 ラサルナリツ子ニ自然シチンチサタ
 セハ義キナキチ義キトストイフコ
 トハナチ義キノアルヘシ
 コレハ佛智ブツチノ不思議フシギニテアル
 ナリヨシアシノ文字モンジチモシラ
 ヌヒトハミナ
 マコトノコ、ロナリケルチ

善惡ゼンアクノ字ジシリカホハオホソ
 ラコトノカタチナリ
 是非ゼヒシラス邪正ジャシヤウモワカヌコノ
 ミナリ
 小慈ショジ小悲ショヒモナケレトモ名利メイリニ
 人師ジンシヲユノムナリ
 帖外和讃
 〇四十八願成就シテ
 正覺シヤウカクノ彌陀ミダトナリタマフ
 九首

タノミチカケシヒトハミナ
 往生ワウシヤウカナラスサタマリヌ
 極樂ゴクラク無爲ムキノ報土ホウツニハ
 雜行サフキヤウムマル、ユトカタシ
 如來ニゴフイ要法ヨウホフチエランテハ
 專修センシュノ行キヤウチオシヘシム
 兆載テウサイ永劫キヤウゴフノ修行シュキヤウハ
 阿彌陀アマミダノ三字サムジニオサマレリ
 五劫ゴコフ思惟シユイノ名號メイガウハ
 五濁ゴチャウノワレラニ付屬フゾクセリ

阿彌陀如來ノ三業ハ

念佛行者ノ三業ト

彼是金剛ノ心ナレハ

定聚ノクラキニサタマリヌ

多聞淨戒エラハレス

破戒罪業キラハレス

タ、ヨク念スルヒトノミノ

瓦礫モ金ト變シケル

金剛堅固ノ信心ハ

佛ノ相續ヨリオコル

他力ノ方便ナクシテハ

イカテカ決定心ヲエン

大願海ノウチニハ

煩惱ノナミコソナカリケレ

弘誓ノフ子ニノリヌレハ

大悲ノ風ニマカセタリ

超世ノ悲願キ、シヨリ

ワレラハ生死ノ凡夫カハ

有漏ノ穢身ハカハラネト

コ、ロハ淨土ニアソフナリ

六八ノ弘誓ノソノナカニ

第三十五ノ願ニ

彌陀ハコトニ女人ヲ

引接セントチカヒシカ

已上帖外和讃

御和讃

御文章
御ふみ
(本派御稱題)
(大谷派御稱題)

(一帖目)

或人アルヒトイハクイハク當流タウリウノコ、ロハ門徒モントヲハカナラスワカ弟子テシトコ、ロエ
 ナクヘク候サブラフヤラン如來ニヨライ聖人シヤウニンノ御弟子オンテシトマウスヘク候サブラフヤランソノ分ブン
 別ワケチ存知ソンチセス候サブラフマタ在々サイクサイク所々ショショニ小門徒コモントヲモチテ候サブラフチモユノアヒタ
 ハ手次テツギノ坊主ハウズニハアヒカクシチキ候サブラフヤウニ心中シムチウヲモチテ候サブラフユレモ
 シカルヘクモナキヨシ人ヒトノマウサレ候サブラフアヒタオナシクユレモ不審フシン
 千万センマンニ候御子サブラフコンコロニウケタマハリタク候サブラフ
 答コタヘテイハクコノ不審フシンモトモ肝要カンヨウトコソ存ソンシ候サブラフヘカタノユトク耳ミミニ
 ト、メチキ候分サブラフブンマウシノフヘシキコシメサレ候サブラフヘ
 故聖人コシヤウニンノオホセニハ親鸞シンランハ弟子テシ一人ヒトヒトモモタストコソオホセラレ候サブラフ

ヒツレソノユヘハ如來ノ教法ヲ十方衆生ニトキ、カシムルトキハ
 タ、如來ノ御代官チマウシツルハカリナリサラニ親鸞メツラシキ
 法ヲモヒロメス如來ノ教法ヲワレモ信シヒトニモチシヘキカシム
 ルハカリナリソノホカハナニチナシヘテ弟子トイハンソトオホセ
 ラレツルナリサレハトモ同行ナルヘキモノナリコレニヨリテ聖人
 ハ御同朋御同行トユソカシツキテオホセラレケリサレハチカコロ
 ハ大坊主分ノ人モワレハ一流ノ安心ノ次第ヲモシラスタマ〜弟
 子ノナカニ信心ノ沙汰スル在所ヘユキテ聽聞シ候人ヲハコトノホ
 カ説諫ヲクハヘ候テアルヒハチカチタカヒナントセラレ候アヒタ
 坊主モシカ〜ト信心ノ一理ヲモ聽聞セスマタ弟子ヲハガヤウニ

アヒサ、ヘ候アヒタワレモ信心決定セス弟子モ信心決定セスシテ
 一生ハムナシクスキユクヤウニ候コトマコトニ自損々他ノトカノ
 カレカタク候アサマシ〜
 古歌ニイハク

ウレシサチムカシハソテニツ、ミケリ
 コヨヒハ身ニモアマリヌルカナ

ウレシサチムカシハソテニツ、ムトイヘルコ、ロハムカシハ雜行
 正行ノ分別モナク念佛タニモ申セハ往生スルトハカリオモヒツル
 コ、ロナリコヨヒハ身ニモアマルトイヘルハ正雜ノ分別チキ、ワ
 ケ一向一心ニナリテ信心決定ノウヘニ佛恩報盡ノタメニ念佛マウ

スユ、ロハオホキニ各別ナリカルカユヘニ身ノチキトコロモナク
オトリアカルホトニオモフアヒタヨロコヒハ身ニモウレシサカア
マリヌルトイヘルユ、ロナリアナカシユ

文明三年七月十五日

當流親鸞聖人ノ一義ハアナカチニ出家發心ノカタチヲ本トセス捨
家棄欲ノスカタヲ標セスタ、一念歸命ノ他力ノ信心ヲ決定セシム
ルトキハサラニ男女老少チエラハサルモノナリサレハコノ信チエ
タルクラキヲ經ニハ即得往生住不退轉トトキ釋ニハ一念發起入正
定之聚トモイヘリコレスナハチ不來迎ノ談平生業成ノ義ナリ

和讃ニイハク彌陀ノ報土チカフヒト外儀ノスカタハコトナリト
本願名號信受シテ寤寐ニワスル、コトナカレトイヘリ外儀ノスカ
タトイフハ在家出家男子女人チエラハサルコ、ロナリツキニ本願
名號信受シテ寤寐ニワスル、コトナカレトイフハカタチハイカヤ
ウナリトイフトモ又ツミハ十惡五逆謗法闡提ノトモカラナレトモ
廻心懺悔シテフカクカ、ルアサマシキ機チスクヒマシマス彌陀如
來ノ本願ナリト信知シテフタユ、ロナク如來チタノムコ、ロノ子
テモサメテモ憶念ノ心ツ子ニシテワスレサルヲ本願タノム決定心
チエタル信心ノ行人トハイフナリサテユノウヘニハタトヒ行住坐
臥ニ稱名ストモ彌陀如來ノ御恩ヲ報シマウス念佛ナリトオモフヘ

キナリコレナ眞實信心シンシンシンチエタル決定往生ケテチヤウソウシヤウノ行者キヤウシヤトハマウスナリア
ナカシユ

アツキ日ヒニナカル、アセハナミダカナ
カキチクフテノアトソオカシキ

文明三年七月十八日

マツ當流ダウリウノ安心アンシンノチモムキハアナカチニ我ワカコ、ロノワロキチモマ
タ妄念マウチムマウシウ妄執マウシウノコ、ロノチユルチモト、メヨトイフニモアラスタ、
アキナヒチモシ奉公ホウコウチモセヨ獵カリスナトリチモセヨカ、ルアサマシ
キ罪業サイゴクニノミ朝夕ワウセキマトヒヌル我等ワレラコトキノイタツラモノチダスケ

ントチカヒマシマス彌陀ミダ如來ニヨライノ本願ホンクワンニテマシマスソトフカク信シン
テ一心イツシンニフタユ、ロナク彌陀ミダ一佛イチブツノ悲願ヒクワンニスカリテダスケマシマ
セトオモフユ、ロノ一念イツンノ信シンマコトナレハカナラス如來ニヨライノ御オシタス
ケニアツカルモノナリユノウヘニハナニトユ、ロエテ念佛ニムフチマウス
ヘキノナレハ往生ワウシヤウハイマノ信力シンリキニヨリテ御オシタスケアリツルカタシ
ケナキ御恩ゴオン報謝ホウシャノタメニワカイノチアランカキリハ報謝ホウシャノタメト
オモヒテ念佛ニムフチマウスヘキナリコレナ當流ダウリウノ安心アンシン決定ケツテイシタル信心シンシンノ
行者キヤウシヤトハマウスヘキナリアナカシユ

文明三年十二月十八日

抑親鸞聖人ノ一流ニナヒテハ平生業成ノ儀ニシテ來迎ヲモ執セラ
 レサフヲハヌヨシウケタマハリヲヨヒサフヲハイカ、ハンヘル
 ヘキヤソノ平生業成トマウスコトモ不來迎ナントノ儀ヲモサラニ
 存知セスクワシク聽聞ツカマツリタクサフヲフ
 答テイハクマコトニコノ不審モトモモテ一流ノ肝要トオホエサフ
 ラフオホヨソ當家ニハ一念發起平生業成ト談シテ平生ニ彌陀如來
 ノ本願ノ我等ヲタスケタマフコトハリヲキ、ヒラクコトハ宿善ノ
 開發ニヨルカユヘナリトコ、ロエテノチハワカチカラニテハナカ
 リケリ佛智他力ノサツケニヨリテ本願ノ由來ヲ存知スルモノナリ
 トコ、ロウルカスナハチ平生業成ノ儀ナリサレハ平生業成トイフ

ハイマノコトハリヲキ、ヒラキテ往生治定トオモヒサタムルクラ
 申テ一念發起住正定聚トモ平生業成トモ即得往生住不退轉トモイ
 フナリ
 問テイハク一念往生發起ノ儀クハシクコ、ロエラレタリシカレト
 モ不來迎ノ儀イマタ分別セスサフヲフ子ンコロニシメシウケタマ
 ハルヘクサフヲフ
 答テイハク不來迎ノコトモ一念發起住正定聚ト沙汰セラレサフヲ
 フトキハサラニ來迎ヲ期シサフヲフヘキコトモナキナリソノユヘ
 ハ來迎ヲ期スルナントマウスコトハ諸行ノ機ニトリテノコトナリ
 眞實信心ノ行者ハ一念發起スルトコロニテヤカテ攝取不捨ノ光益

ニアツカルトキハ來迎^{ライカウ}マテモナキナリトシラル、ナリサレハ聖人^{シヤウニン}
 ノオホセニハ來迎^{ライカウ}ハ諸行往生^{シヨキヤウワウシヤウ}ニアリ眞實信心^{シンシツシン}ノ行人^{キヤウニン}ハ攝取不捨^{シヤクシユフ}ノ
 ヲヘニ正定聚^{シヤウヂヤウシユ}ニ住ス正定聚^{シヤウヂヤウシユ}ニ住スルカユヘニカナラス滅度^{メチ}ニイタ
 ルカルカユヘニ臨終^{リンシユ}マツコトナシ來迎^{ライカウ}タノムコトナジトイヘリコ
 ノ御^オコトハチモテコ、ロウヘキモノナリ
 問^トテイハク正定^{シヤウヂヤウ}ト滅度^{メチ}トハ一益^{ヒチヤク}トコ、ロウヘキカマク二益^{ニヤク}トコ、
 ロウヘキヤ
 答^{コタヘ}テイハク一念發起^{ヒチナムボチキ}ノカタハ正定聚^{シヤウヂヤウシユ}ナリコレハ穢土^{エト}ノ益^{ヤク}ナリツキ
 ニ滅度^{メチ}ハ淨土^{シヤウト}ニテウヘキ益^{ヤク}ニテアルナリトコ、ロウヘキナリサレ
 ハ二益^{ニヤク}ナリトオモフヘキモノナリ

問^トテイハクカクノコトクコ、ロエサフヲフトキハ往生^{ワウシヤウ}ハ治定^{チヂヤウ}ト存^{ソン}
 シチキサフヲフニナニトテワツラハシク信心^{シンシツ}ヲ具^グスヘキナント沙^サ
 汰^タサフヲフハイカ、ユ、ロエハンヘルヘキヤコレモウケタマハリ
 タクサフヲフ
 答^{コタヘ}テイハクマコトニモテユノタツ子^{カンモウ}肝要^{カンモウ}ナリサレハイマノ
 コトクニコ、ロエサフヲフスカタユソスナハチ信心^{シンシツ}決定^{ケチヂヤウ}ノコ、ロ
 ニテサフヲフナリ
 問^トテイハク信心^{シンシツ}決定^{ケチヂヤウ}スルスカタスナハチ平生業成^{ヘイセイゴフシヤウ}ト不來迎^{フライカウ}ト正定^{シヤウヂヤウ}
 聚^{シユ}トノ道理^{ダウリ}ニテサフヲフヨシ分明^{フンミヤウ}ニ聽聞^{チヤウモン}ツカマツリサフヲフヒチ
 ハリヌシカリトイヘトモ信心^{シンシツ}決定^{ケチヂヤウ}シテノチニハ自身^{ジシン}ノ往生極樂^{ワウシヤウゴクラク}